

御宿町地域公共交通計画 素案

令和6年1月

御宿町地域公共交通活性化協議会

目 次

	頁
1. はじめに	1
(1) 国が示す地域公共交通の方向性	1
(2) 背景・目的.....	1
(3) 対象地域.....	1
(4) 計画期間.....	1
2. 御宿町の現状	2
(1) 位置及び地勢	2
(2) 人口・世帯数	3
(3) 交通利用特性.....	5
(4) 施設立地・生活圏	6
3. 地域公共交通の現状	7
(1) 御宿町の公共交通網	7
(2) 鉄道	8
(3) 高速バス.....	9
(4) 路線バス.....	10
(5) エビアミー号	11
(6) 公共交通に関する財政負担額	13
(7) タクシー.....	14
(8) 移動支援事業.....	14
4. 上位関連計画	15
(1) 第5次御宿町総合計画～みんなで創るみんなの ONJUKU2030～	15
(2) 御宿町人口ビジョン及び御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略	15
5. 意向把握調査	16
(1) 住民アンケート調査	16
(2) ワークショップ	19
(3) 公共交通の利用者に対するアンケート調査	24
(4) 旅行者アンケート調査.....	35
(5) 事業者アンケート	38
6. 地域公共交通の課題	44
(1) 現状と課題の整理	44
(2) 公共交通の課題	45

7. 御宿町公共交通計画策定に係る基本方針	46
(1) 基本理念.....	46
(2) 基本方針.....	46
(3) 公共交通の機能分担	47
8. 計画の目標と評価指標	48
(1) 目標の設定.....	49
(2) 評価指標.....	50
9. 実施事業及び実施主体	51
(1) 計画目標を踏まえた実施事業	51
(2) 実施事業.....	52
10. 計画の達成状況の評価	60
(1) 計画の実施及び進行管理の体制	60
(2) PDCA サイクルによる推進	61
(3) 評価方法及びスケジュール	62

1. はじめに

(1) 国が示す地域公共交通の方向性

国は、令和2年11月にこれまでの地域公共交通網形成計画を地域公共交通計画と改め、地域旅客運送サービス継続事業や地域公共交通利便増進事業等が創設され、地域における移動手段の確保や地域公共交通の充実を図る制度が整備された。

また、地域住民の豊かな暮らしの実現に不可欠な存在であるバス・鉄道などの地域交通について、人口減少やコロナ禍の影響で一層厳しい状況であることも踏まえ、最新のデジタル技術等の実装を進めつつ、①官と民で、②交通事業者相互間で、③他分野とも、3つの「共創」を推進し、地域交通を持続可能な形で「リ・デザイン」する方策を探るため、令和4年3月にアフターコロナに向けた地域交通の「リ・デザイン」有識者検討会を立ち上げ、検討を行った。

さらに、令和5年1月に、厳しい経営が続いている地域の鉄道やバスなど公共交通を再構築する元年と位置付け、支援を強化する方針が国土交通省より示された。

(2) 背景・目的

御宿町は、鉄道（JR 外房線）、高速バス、路線バス、一般タクシー及び乗合運行エビアミー号が公共交通として運行されているが、高齢化の進展や運転免許証返納者の増加等に伴う公共交通に係るニーズに十分に対応できていない状況にある。

そこで、今後も進展する人口減少や高齢化を見据えた交通需要を的確に把握するとともに、町内の公共交通体系の維持と各公共交通機関の連携体制の確立により、地域住民や利用者の利便性を高め、持続可能な交通網を形成するための御宿町地域公共交通計画（以下、本計画という。）を策定した。

(3) 対象地域

千葉県御宿町全域とする。

(4) 計画期間

令和6年度～令和10年度までの5年間とする。

■本計画の計画期間及び更新期間

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
第5次御宿町総合計画（R5-R12）	前期計画		後期計画				次期計画	見直し	
第2期御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略	見直し		総合計画と一体化						
御宿町地域公共交通計画						次期計画			

2. 御宿町の現状

(1) 位置及び地勢

御宿町は、千葉県房総半島の中央部東端に位置しており、東京まで75kmの距離にあり、車利用の場合約120分、鉄道利用の場合約80分（特急利用）で行き来できる。

沖合を流れる黒潮の影響で、気候は年間を通じて温暖である。

面積は24.85㎢とコンパクトな町であり、里海や里山の自然が広がっている。

海岸には約2kmに渡る真っ白な砂浜が広がり、海水浴のほか、一年を通してサーフィンをはじめとするビーチスポーツで賑わい、その砂浜は童謡「月の沙漠」発祥の地として知られている。

また、1609年、スペイン船サン・フランシスコ号がメキシコへの帰港中に岩和田沖で座礁し、当時の村民たちが総出で献身的な救出を行ったことから、「日西墨三国交通発祥記念之碑」（通称：メキシコ記念塔）を建立し、日本・メキシコ・スペインの友好の始まりの地としても知られている。

町には、岩和田漁港と御宿漁港の2つの港があり、沿岸漁業・磯根漁業を主とし、イセエビをはじめ、アワビ、サザエ、キンメダイ等、季節の水産物が水揚げされている。

■位置図



(2) 人口・世帯数

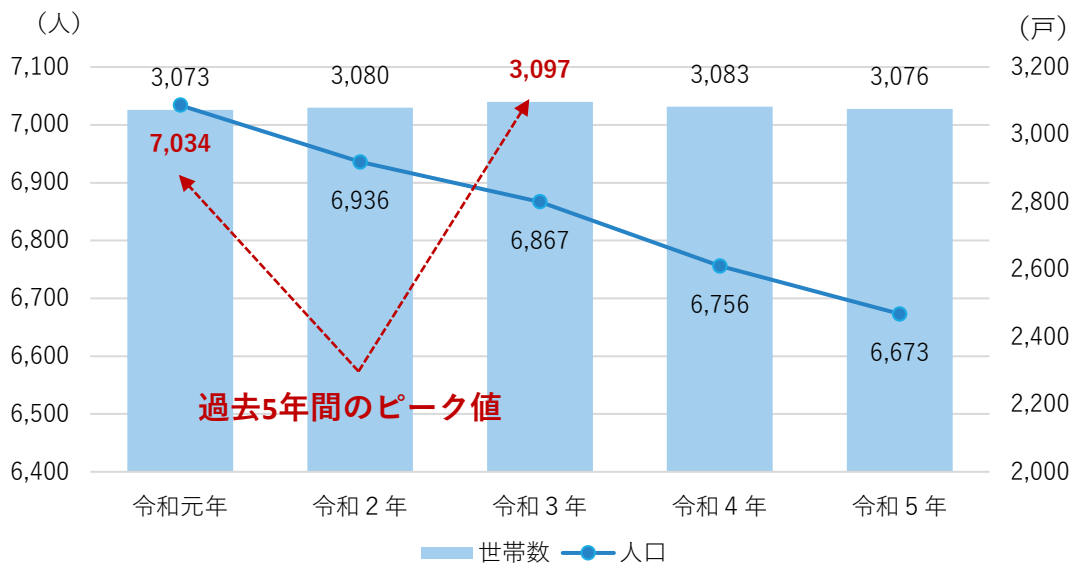
令和5年(1月1日現在)の総人口は6,673人となっており、過去5年間を見ると減少傾向にある。年少人口・生産年齢人口・老年人口の年齢3区分では、老年人口が増加しているのに対し、年少人口は年々減少傾向にある。

世帯数は令和3年をピークに微減傾向にあり、令和5年時点で3,076世帯となっている。

本町における高齢化率は国・千葉県と比較してもその値は高く50%を超えており、2人に1人は65歳以上の高齢者である。

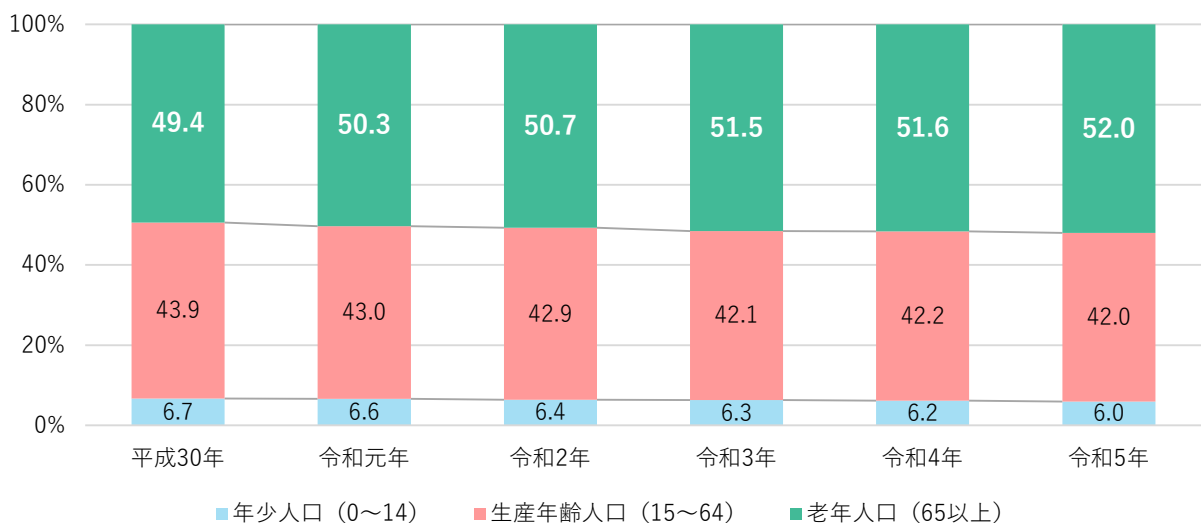
また、人口分布の状況を見ると、御宿駅を核とした中心市街地と、里海エリアである海岸沿いにかけて人口が集中している。北西部の里山エリアでは比較的人口が少なく過疎化が進んでいる状況である。

■人口と世帯数の推移



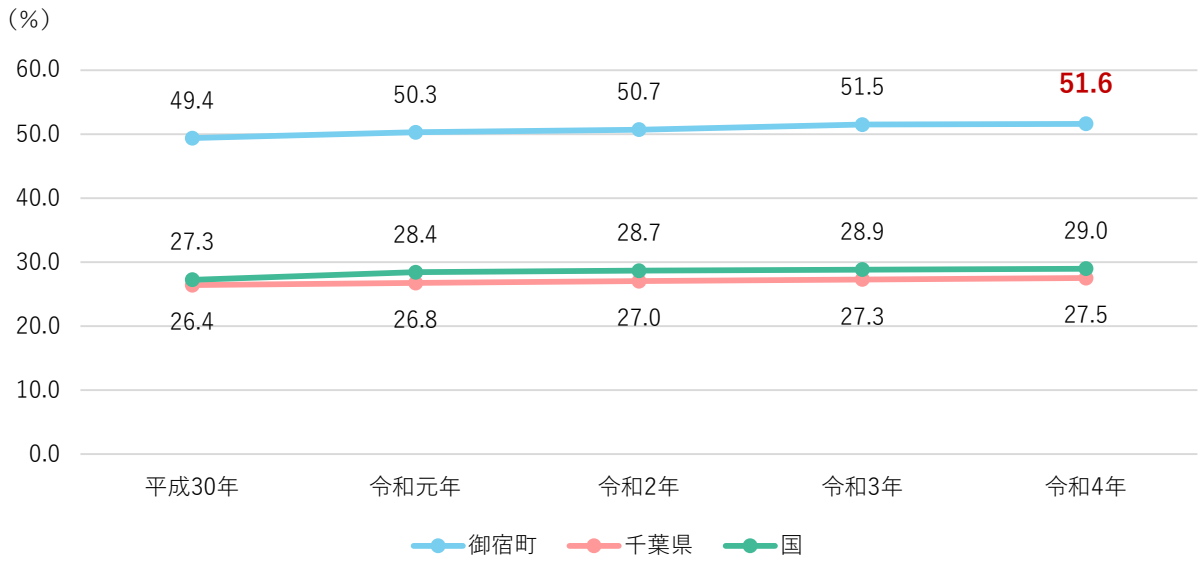
(出典) 千葉県毎月常住人口調査報告書(年報) (各年1月1日現在)

■年齢3区分別人口



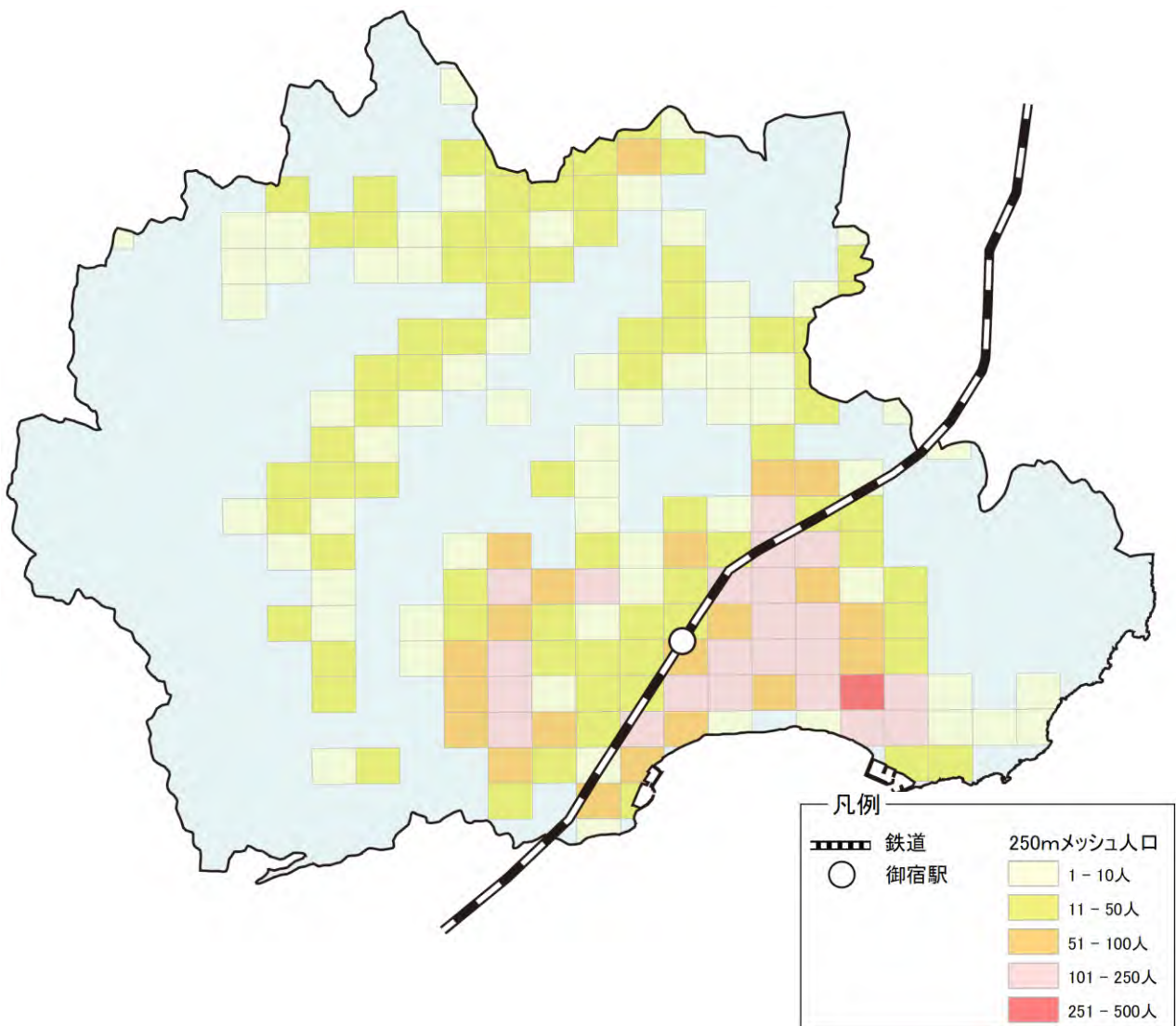
(出典) 千葉県年齢別・町丁字別人口

■ 高齢化率の推移



(出典) 平成 27 年・令和 2 年国勢調査の数値及び推計値

■ 250mメッシュ人口分布図



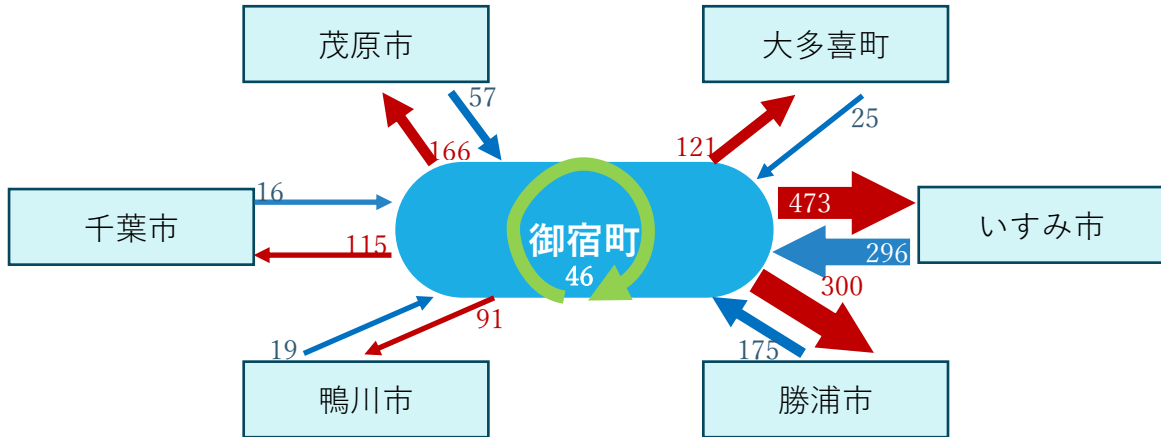
(参考) 国土数値情報及び国勢調査結果を基に作成

(3) 交通利用特性

本町の通勤・通学の流動は、医療・商業施設などの集客施設が多数立地するいすみ市と勝浦市への流出が比較的多く、2市で流出口の約61%を占める773人となっている。流入人口においてもいすみ市と勝浦市のつながりが強く、2市で流入人口の約80%を占める471人となっている。

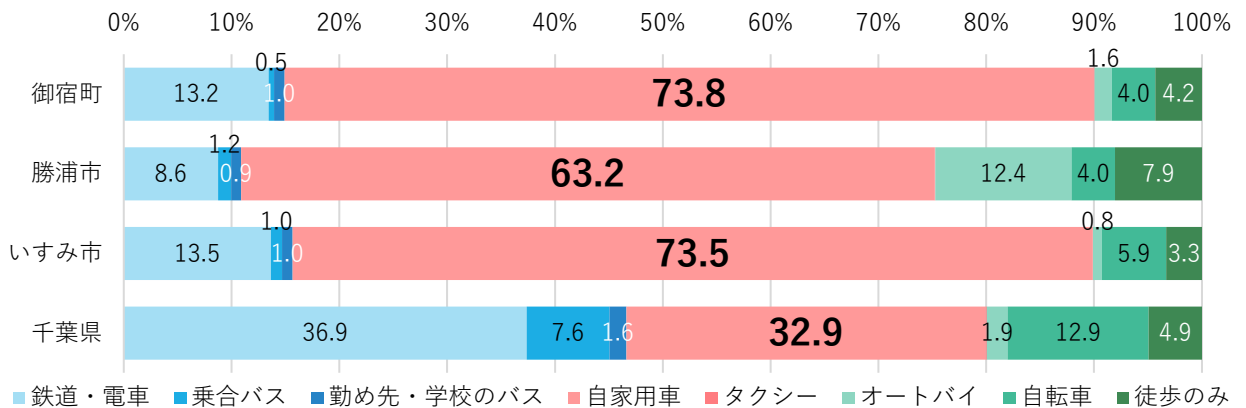
運転免許保有者数は年々減少傾向にあるものの、代表交通手段としては自家用車が73.8%となっており、千葉県や隣接地域よりも高い状況となっている。

■通勤通学流動



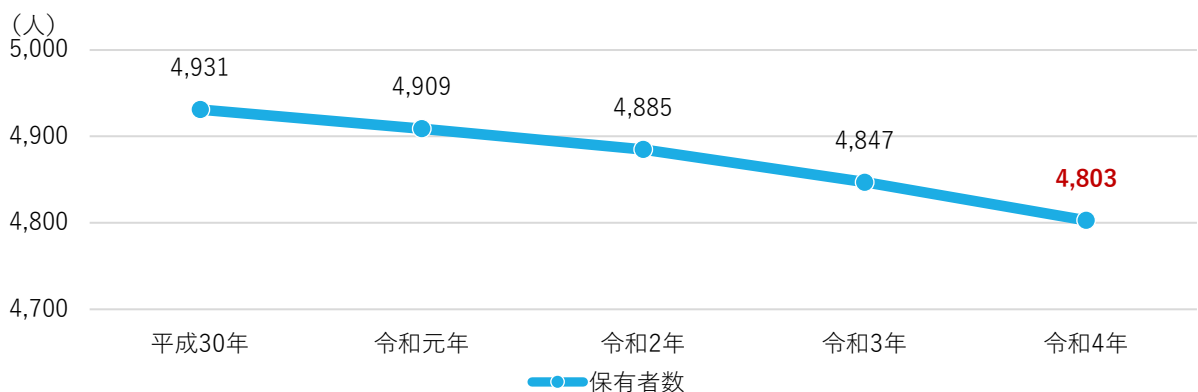
(参考) R2 国勢調査結果を基に作成

■代表交通手段



(参考) H30 パーソントリップ調査結果を基に作成

■運転免許保有状況



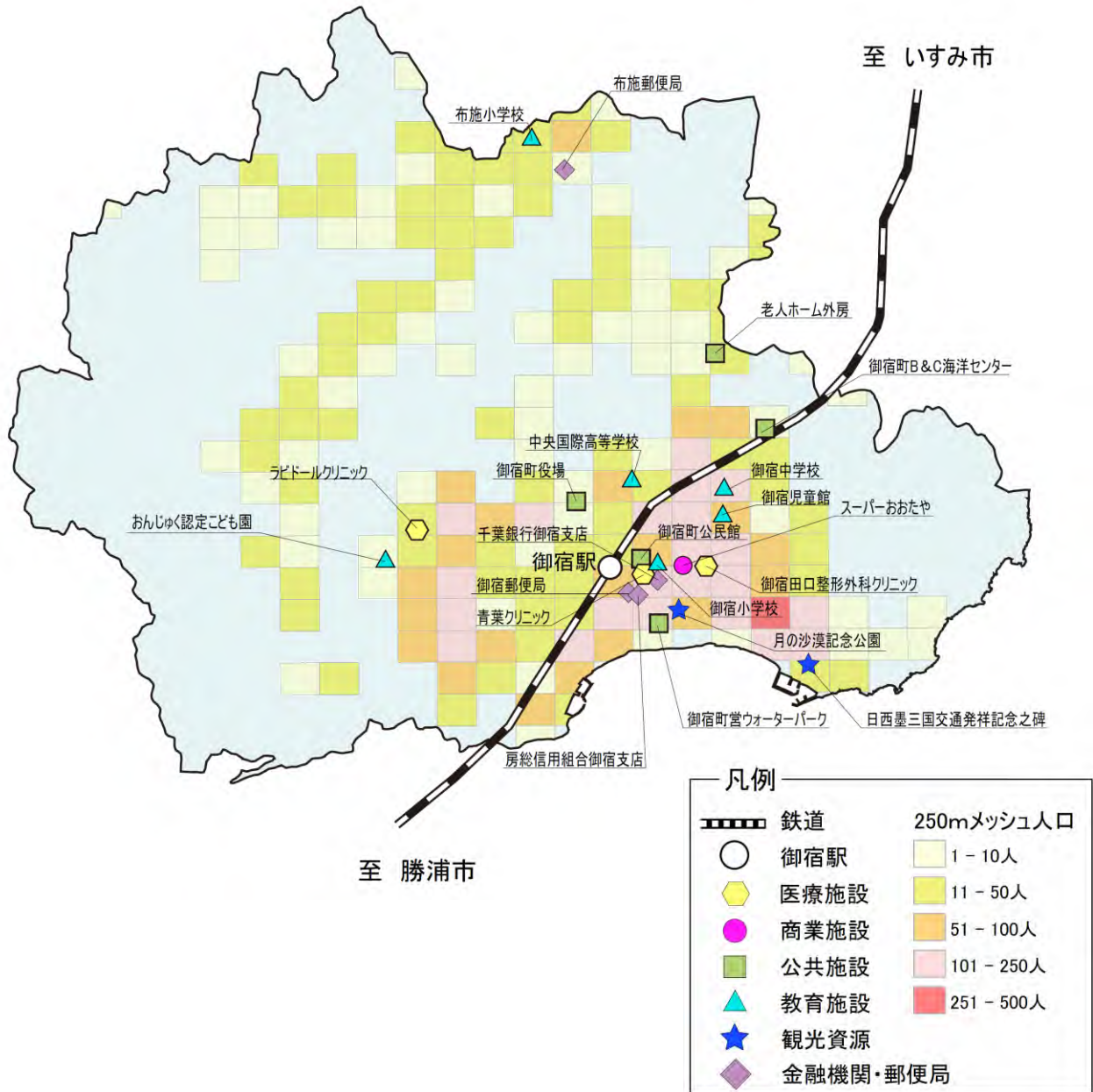
(出典) 千葉県警察公表データ (毎年12月末)

(4) 施設立地・生活圏

町内に立地している主な医療施設・商業施設・公共施設・教育施設・観光施設等について以下に示す。

図より、本町の各施設は御宿駅周辺のまちなかエリア及び御宿駅より南東の里海エリアに多く機能が集積しており、里山エリアは集客機能が低い状況であることがわかる。

■主要施設分布図



(参考) 国土数値情報及び国勢調査結果を基に作成

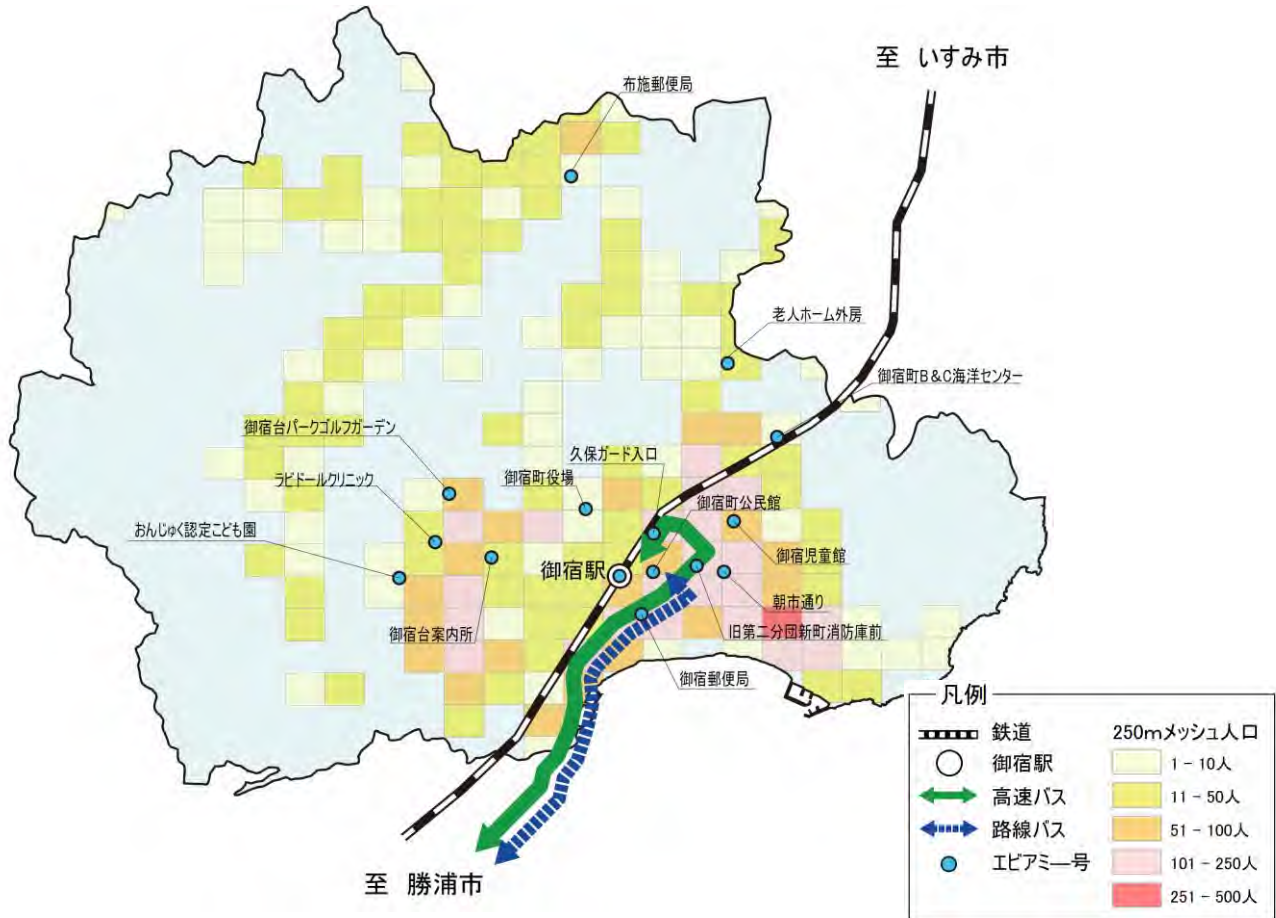
3. 地域公共交通の現状

(1) 御宿町の公共交通網

本町の公共交通として、町域を跨ぐ路線である広域交通では鉄道（JR 外房線）や高速バスがあり、地域間を結ぶ地域間交通として路線バスが整備されている。

また、町域内の移動としてエビアミー号が運行している状況である。

■現状の公共交通網図



(参考) 国土数値情報及び国勢調査結果を基に作成

■町内公共交通の運行状況

交通機関	路線等	便数/日	
		平日	土日祝
鉄道 (JR 外房線)	上り (大網・千葉方面)	33 便	35 便
	下り (勝浦・安房鴨川方面)	34 便	36 便
高速バス (御宿公民館経由)	上り (東京駅方面)	3 便	3 便
	下り (安房小湊方面)	3 便	3 便
路線バス (小湊鐵道)	勝浦-部原-御宿駅線	3 便	3 便
エビアミー号	乗合運行 (面的サービス)	8 便	8 便

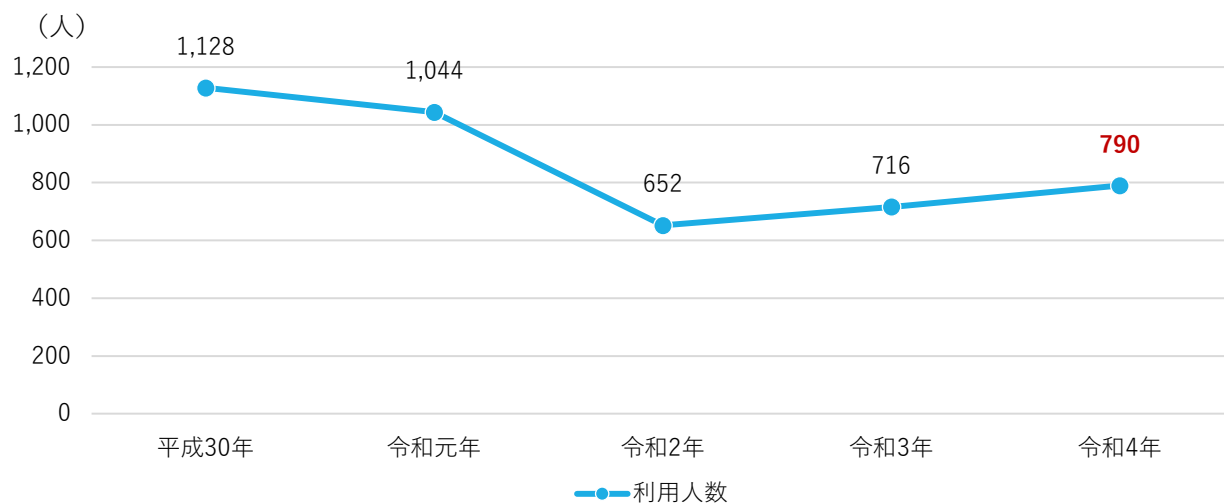
(2) 鉄道

本町南北を横断するように JR 外房線が走っており、本町唯一の鉄道駅である御宿駅を有している。

御宿駅は生活基盤を維持・向上させる事業として、JR 外房線利用者の利便性向上を図るため、御宿駅舎等のバリアフリー化に向けた協議を進めている。

御宿駅の乗降客数は、新型コロナウイルス感染症の影響等により減少傾向にあったが、令和4年で790人/日となっており、徐々に回復傾向となっている。

■乗降客数の推移（日平均）



（出典）JR 東日本駅別乗降者人員

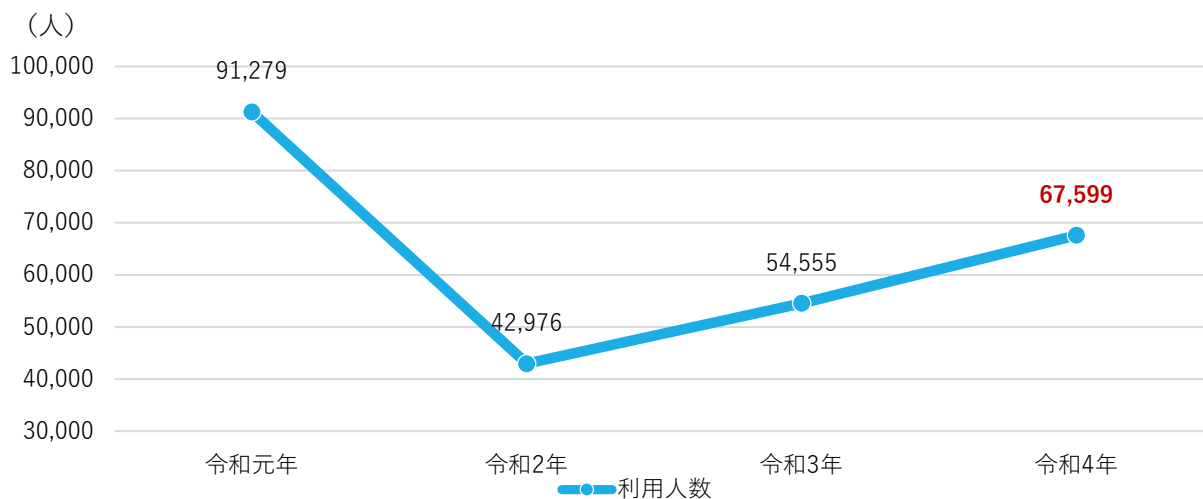
■JR 外房線 御宿駅



(3) 高速バス

御宿町公民館から東京駅八重洲口までをつなぐ高速バスが3便/日運行しており、鉄道同様、新型コロナウイルス感染症の影響等により減少傾向にあったが、令和4年で67,599人/年となっており、徐々に回復傾向となっている。

■乗降客数の推移



(出典) 小湊鉄道提供資料

■高速バス車両



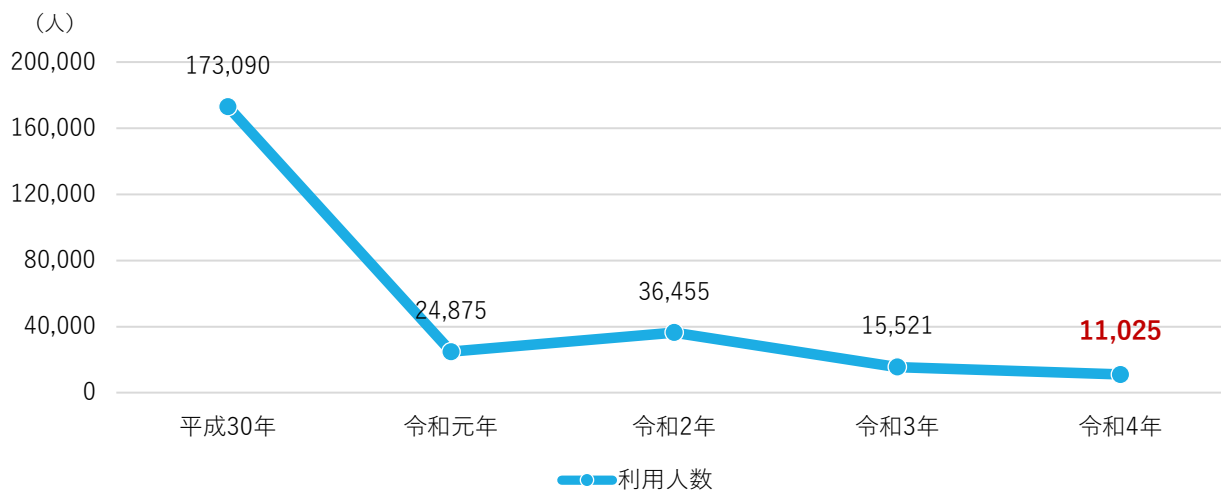
(4) 路線バス

路線バスは、小湊鐵道（株）が本町と勝浦市を結ぶ路線を1日3往復運行している。

近年の利用者動向では、人口減少に加えコロナ禍による外出抑制・テレワークの普及により令和元年から大幅に減少しており、令和4年で11,025人と未だ利用者が戻っておらず、交通事業者の経営を圧迫している状況である。

※令和6年10月に御宿-勝浦間の路線は廃止予定。

■乗降客数数の推移



(出典) 小湊鐵道提供資料

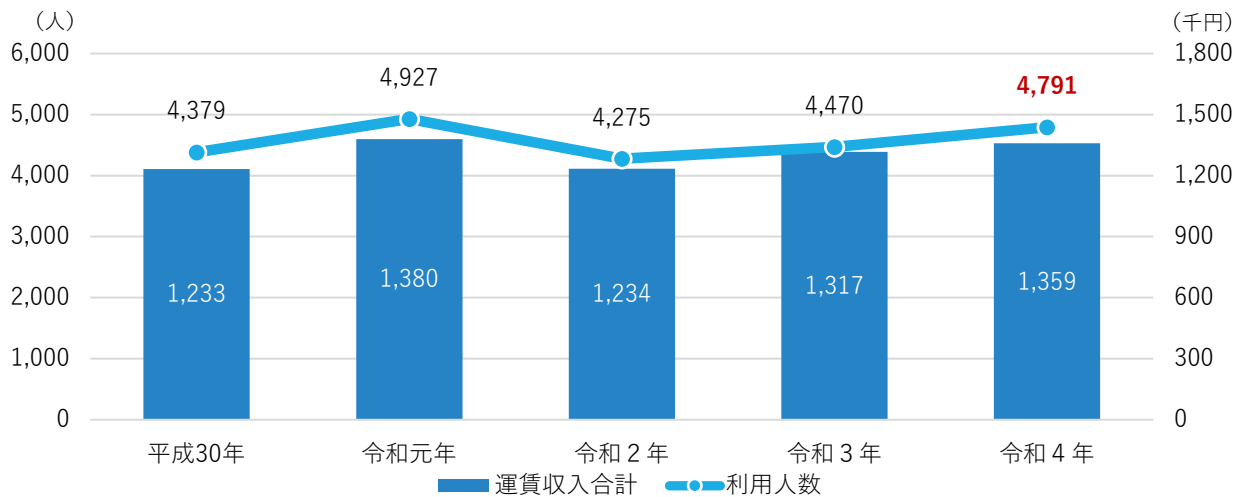
■路線バス車両



(5) エビアミー号

町全域の移動では、エビアミー号が1日8便、予約型乗合運行として整備されている。利用者は年々増加傾向で運賃収入も増加している一方で、1便当たりの平均乗合率は1.7人/便となっていることから、乗合率の向上が課題として挙げられる。また、いすみ市と勝浦市との結びつきが強いことから、サービスの拡大についても検討が必要である。

■乗降客数と運賃収入の推移



(出典) 御宿町統計

■エビアミー号車両



■利用案内パンフレット

2021年4月1日改定

御宿町乗合運行 エビアミー号

ご利用案内

運行範囲は町内全域です。1日8便を運行しています。

かんたん！電話で予約

自宅までお迎えに行きます

買い物や通院に便利

共通乗降場所は全線で14か所

予約電話番号はこちら！ **0470-73-0550**

ご利用には事前の登録が必要です！ FAX 0470-73-0663

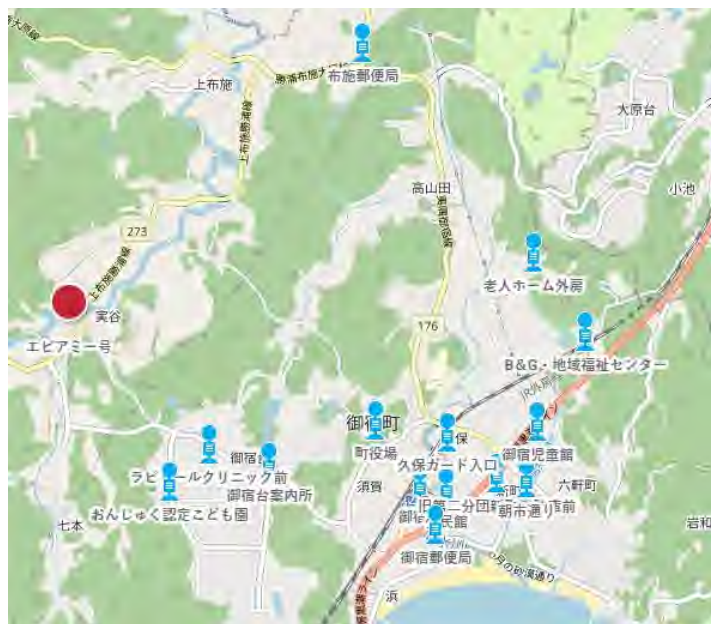
運行会社 小湊鉄道株式会社

区分	料金	備考
① 大人(中学生以上)	300円	1乗車につき
② 小学生	100円	1乗車につき
③ 小学生未満	無料	保護者の同伴が必要のため、保護者分の料金として300円の運賃がかかります。
④ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方	200円	1乗車につき
⑤ 上記④の初回者	200円	1乗車につき

■乗降場

- ①御宿駅
- ②公民館
- ③役場
- ④第2分団新町消防庫前
- ⑤朝市通り
- ⑥B&G・地域福祉センター
- ⑦御宿児童館
- ⑧御宿郵便局
- ⑨御宿台案内所
- ⑩御宿台パークゴルフガーデン
- ⑪久保ガード入り口
- ⑫布施郵便局
- ⑬おんじゅく認定こども園
- ⑭老人ホーム外房
- ⑮御宿駅入り口（ちばぎん前）R6 新設
- ⑯須賀（セブンイレブン前）R6 新設

■位置情報サービス



■利用料金

項目	料金	備考
(1) 大人（中学生以上）	300 円	1 乗車につき
(2) 小学生	100 円	1 乗車につき
(3) 小学生未満	無料	保護者分は 300 円
(4) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方	200 円	1 乗車につき
(5) 上記（4）の介助者	200 円	1 乗車につき

■運行ダイヤ

第 1 便	第 2 便
7:30~8:30	8:30~9:30
第 3 便	第 4 便
9:30~10:30	10:30~11:30
第 5 便	第 6 便
11:30~12:30	12:30~13:30
第 7 便	第 8 便
15:30~16:30	16:30~17:30

■予約方法

エビアミー号を予約する方法

自宅（付近）から目的地（共通乗降場所）に行く場合

(1) エビアミー号を電話で予約します。

予約電話番号は、0470-73-0550

(2) 登録証にある①登録番号、②名前、③利用される時間

④行き先 をお伝えください。 ➡ **お出かけの予約完了**



共通乗降場所から、自宅（付近）に戻る場合

(1) エビアミー号を電話で予約します。0470-73-0550

(2) 登録証にある①登録番号、②名前、③利用される時間

④行き先 をお伝えください。 ➡ **お帰りの予約完了**



※1 自宅（付近）から目的地に行く予約時に、帰りの便を予約することもできます。

※2 共通乗降場所から共通乗降場所へ行く場合も同じように予約してください。

問い合わせ先 御宿町企画財政課 電話0470-68-2512 (内)

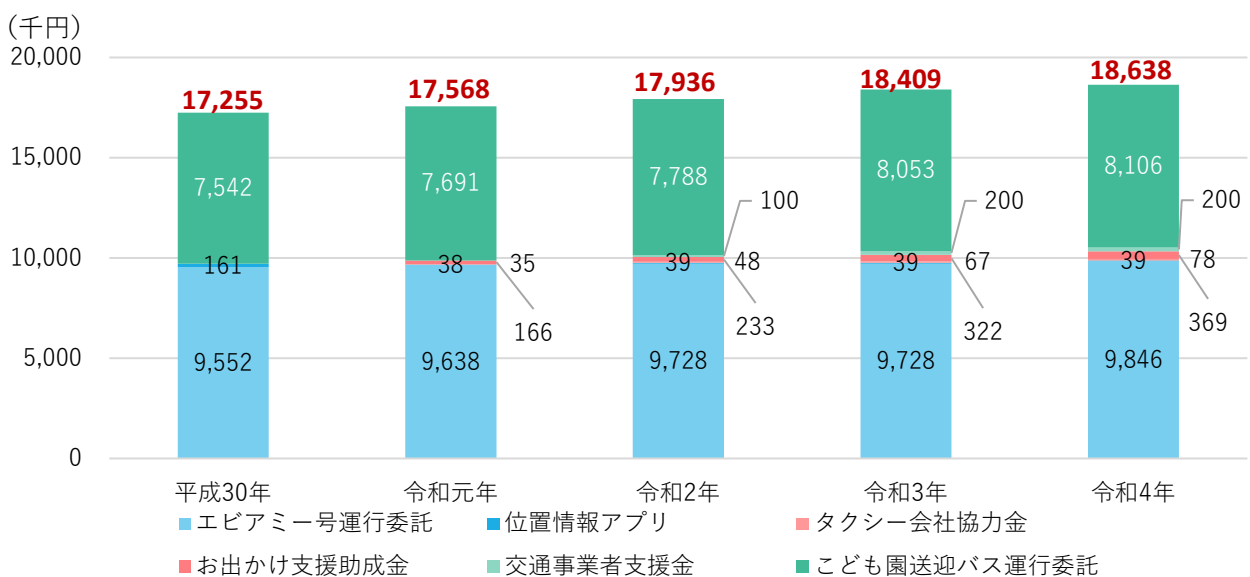
(6) 公共交通に関する財政負担額

公共交通に関する財政負担額は年々増加傾向にあり、令和4年で18,638千円となっており、今後も公共交通の利用促進のための施策等により増加することが予想される。

割合を多く占める事業としては、エビアミー号運行委託費で9,846千円と総負担額の約53%を占めており、次いでこども園送迎バス運行委託として8,106千円と総負担額の約44%を占めている。

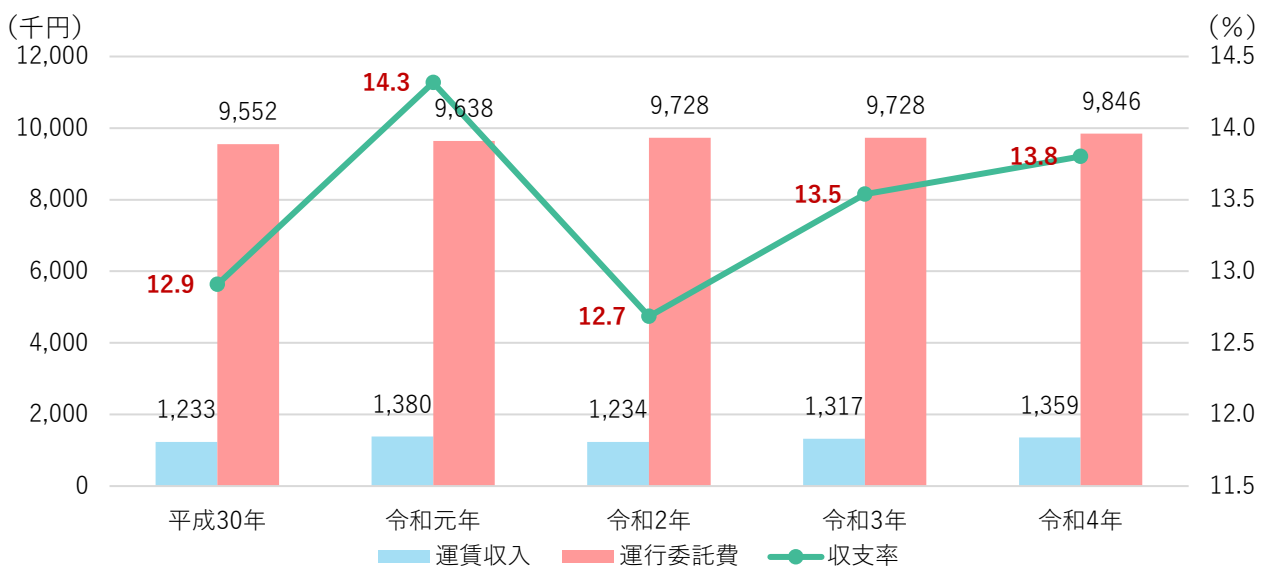
エビアミー号の収支率（運賃収入/運行委託費）は令和4年で13.8%と低い数値となっており、今後も、運行委託費の増加等が予想されるため、モビリティ・マネジメントによる住民の利用促進や来訪者の公共交通への転換等による運賃収入の増加により、持続可能な公共交通を目指す必要がある。

財政負担額の推移



(出典) 御宿町統計

エビアミー号の収支率



(出典) 御宿町統計

(7) タクシー

本町を営業地域とする事業者は、エミタスタクシー南総（株）の1社であり、待機所が町内に立地している。

■町内を運行しているタクシー会社

会社名	分類	待機所所在地	登録台数
エミタスタクシー南総（株）	待機所	御宿駅	19台

(8) 移動支援事業

移動支援事業としては、以下の事業を実施している。

■移動支援事業一覧

事業名	対象	内容
障害者(児)移動支援事業	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている方	屋外での移動に困難がある障害者(児)について、外出のための支援を行うことにより、障害者等の地域での自立生活及び社会参加を促進 【利用料】原則1割負担
福祉タクシー事業	以下のいずれかに該当する方 ・身体障害者手帳1・2級の方 ・療育手帳の交付を受けた方 ・精神障害者保健福祉手帳1・2級の方	重度の心身障害者(児)の社会参加を促進するため、タクシー料金の一部を助成 【交付枚数】年間で最大36枚(申請月により交付枚数が異なる)
障害者運転免許取得費助成	身体障害者手帳1～4級または療育手帳の所持者であって、運転免許証の交付を受けた方	身体障害者または知的障害者が自動車免許を取得する場合に要する経費の一部を助成 【対象経費】自動車免許証取得のために要した教習費 【助成額】教習費の2/3以内で、10万円を限度とする額
お出かけ支援事業	エピアミー号を利用した方(小学生未満、障がい者の介助者を除く。ただし小学生未満の障がい者の介助者は対象。)	タクシー料金の半分(10円単位未満切り捨て)を割引 深夜割増がある場合は、それらを適用した後の料金から割引 【助成額】タクシー料金の半額割(最大500円限度)

4. 上位関連計画

(1) 第5次御宿町総合計画～みんなで創るみんなの ONJUKU2030～

【策定年度】	令和5年3月								
【計画期間】	令和5年度～令和12年度まで								
【将来像】	ひと・マチ・自然がつながり つなげる「ちょうどいいまち」御宿								
【目標の柱】	<table border="0"> <tr> <td>1. つながる【協働・行政運営】</td> <td>2. 備える【防災・安心・安全】</td> </tr> <tr> <td>3. 支え合う【福祉・医療】</td> <td>4. 育む【子育て・教育】</td> </tr> <tr> <td>5. 引き継ぐ【自然・文化】</td> <td>6. 住まう【住環境】</td> </tr> <tr> <td>7. 生み出す【産業・観光】</td> <td></td> </tr> </table>	1. つながる【協働・行政運営】	2. 備える【防災・安心・安全】	3. 支え合う【福祉・医療】	4. 育む【子育て・教育】	5. 引き継ぐ【自然・文化】	6. 住まう【住環境】	7. 生み出す【産業・観光】	
1. つながる【協働・行政運営】	2. 備える【防災・安心・安全】								
3. 支え合う【福祉・医療】	4. 育む【子育て・教育】								
5. 引き継ぐ【自然・文化】	6. 住まう【住環境】								
7. 生み出す【産業・観光】									

<p>■公共交通の位置づけ</p> <p>≪施策の方針≫ 誰もが利用しやすい地域交通となるよう、鉄道及び路線バス等の維持・充実に向けた取組みを進める。</p> <p>≪町が取り組むべきこと≫</p> <p>○地域公共交通の維持充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JR 外房線における輸送サービスの維持・充実 ・ 御宿町地域公共交通計画の策定 ・ 御宿町地域公共交通活性化協議会の開催 ・ 御宿駅のバリアフリー化の推進 <p>○住民の移動手段の維持と利便性の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗合運行エビアミー号の運行・充実 ・ タクシー、路線・高速バスの維持・充実 ・ いすみ鉄道輸送安全対策
--

(2) 御宿町人口ビジョン及び御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略

【策定年度】	令和3年3月改定（平成27年10月策定）						
【計画期間】	令和3年度～令和6年度						
【基本目標】	<table border="0"> <tr> <td>1. 地域産業の創生と雇用の拡大</td> <td>2. 移住定住促進と関係人口の創出・拡大</td> </tr> <tr> <td>3. 安心して子育てできるまちづくり</td> <td>4. 高齢者が安心して住み続けられる環境づくり</td> </tr> <tr> <td>5. 好循環を支えるまちづくり</td> <td></td> </tr> </table>	1. 地域産業の創生と雇用の拡大	2. 移住定住促進と関係人口の創出・拡大	3. 安心して子育てできるまちづくり	4. 高齢者が安心して住み続けられる環境づくり	5. 好循環を支えるまちづくり	
1. 地域産業の創生と雇用の拡大	2. 移住定住促進と関係人口の創出・拡大						
3. 安心して子育てできるまちづくり	4. 高齢者が安心して住み続けられる環境づくり						
5. 好循環を支えるまちづくり							

<p>■公共交通の位置づけ</p> <p>施策①：持続可能な地域公共交通の確保と利用促進</p> <p>▽数値目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象項目</th> <th>現状値 (R1)</th> <th>目標値 (R5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公共交通利用者数 (年間)</td> <td>391,500 人</td> <td>400,000 人</td> </tr> <tr> <td>エビアミー号利用者数 (年間)</td> <td>4,755 人</td> <td>5,358 人</td> </tr> </tbody> </table>	対象項目	現状値 (R1)	目標値 (R5)	公共交通利用者数 (年間)	391,500 人	400,000 人	エビアミー号利用者数 (年間)	4,755 人	5,358 人
対象項目	現状値 (R1)	目標値 (R5)							
公共交通利用者数 (年間)	391,500 人	400,000 人							
エビアミー号利用者数 (年間)	4,755 人	5,358 人							

5. 意向把握調査

(1) 住民アンケート調査

調査概要	【日時】 令和4年5月～令和4年6月 【方法】 郵送配布・郵送回収 【対象】 御宿町内に在住する18歳以上の住民1,200人 (年齢及び地域別の人口構成に配慮したうえで無作為抽出)			
回答数	n=511			
内訳	【性別】			
	男性	236 (46.2%)	無回答	4 (0.8%)
	女性	267 (52.3%)	不明	4 (0.8%)
内訳	【年齢】			
	10歳代	4 (0.8%)	60歳代以上	109 (21.3%)
	20歳代	28 (5.5%)	70歳代	149 (29.2%)
	30歳代	51 (10.0%)	80歳代以上	3 (0.6%)
	40歳代	86 (16.8%)	不明	2 (0.4%)
	50歳代	79 (15.5%)		
内訳	【住まい】			
	まちなか	187 (36.6%)	里海	138 (27.0%)
	御宿台	118 (23.1%)	不明	6 (1.2%)
	里山	62 (12.1%)		

【通勤・通学における利用交通手段】

- ・通勤・通学における利用交通手段は、「通勤または通学をしていない」を除き、「自家用車 (56.2%)」が最も多く、次いで「鉄道 (11.0%)」「自転車 (5.3%)」となっている。
- ・年代別に見ると、30代と40代では「自家用車」が80.0%近く、10代・20代では他の年齢層と比較して「鉄道」の利用が高い傾向にある。
- ・エリア別に見るといずれの地域でも自家用車が最も多く、特に里山エリアが最も高く64.5%となっている。

■通勤・通学における利用交通手段

	全体	年齢別								エリア別			
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	まちなか	御宿台	里山	里海
n	511	4	28	51	86	79	109	149	3	187	118	62	138
徒歩のみ	2.9	0.0	0.0	3.9	5.8	3.8	1.8	2.0	0.0	4.3	0.0	1.6	4.3
鉄道	11.0	75.0	28.6	13.7	8.1	15.2	5.5	8.1	33.3	14.4	8.5	11.3	8.0
バス	1.8	0.0	0.0	2.0	2.3	2.5	2.8	0.7	0.0	2.7	0.8	1.6	1.4
勤務先・学校のバス	1.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.3	2.8	0.0	0.0	1.1	0.0	1.6	1.4
自家用車	56.2	50.0	64.3	80.4	79.1	74.7	47.7	30.2	0.0	58.3	49.2	64.5	55.8
ハイヤー・タクシー	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	1.1	0.8	0.0	0.7
バイク	1.2	0.0	0.0	2.0	1.2	2.5	1.8	0.0	0.0	1.6	0.0	3.2	0.7
自転車	5.3	25.0	7.1	9.8	4.7	6.3	3.7	4.0	0.0	4.3	4.2	6.5	7.2
その他	0.6	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.5	1.7	0.0	0.0
通勤または通学していない	19.6	0.0	7.1	7.8	11.6	6.3	27.5	30.9	100.0	20.3	25.4	11.3	15.9
不明	18.0	25.0	3.6	3.9	4.7	6.3	19.3	38.9	0.0	15.0	19.5	19.4	21.0

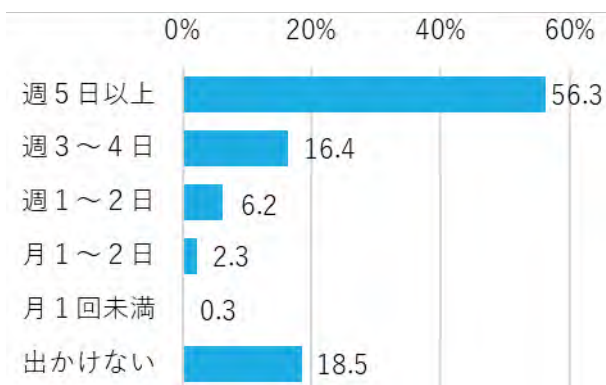
【日常生活における移動実態】

- ・通勤・通学におけるお出かけ回数は、「週5日以上(56.3%)」が最も高く、行き先は「御宿町外(74.1%)」となっている。
- ・通院におけるお出かけ回数は、「月1回未満(45.3%)」が最も高く、次いで「月に1～2日(26.3%)」となっており、行き先は「御宿町外(81.8%)」となっている。
- ・買物におけるお出かけ回数は、「週1～2日(55.8%)」が最も高く、次いで「週に3～4日(24.4%)」となっており、行き先は「御宿町外(69.5%)」となっている。

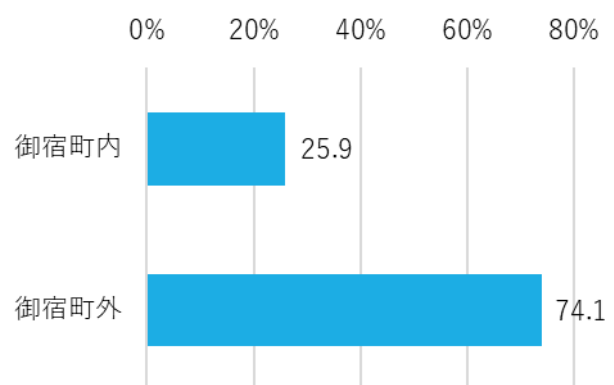
■目的別のお出かけ回数・行き先

【通勤・通学】(n=511)

お出かけ回数

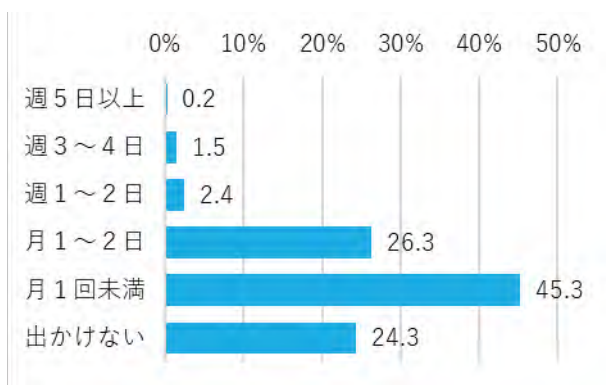


行き先

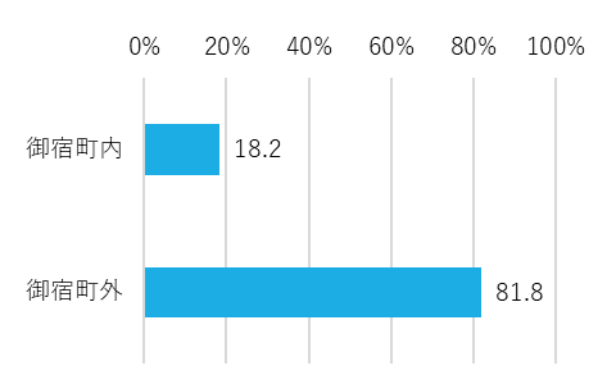


【通院】(n=511)

お出かけ回数

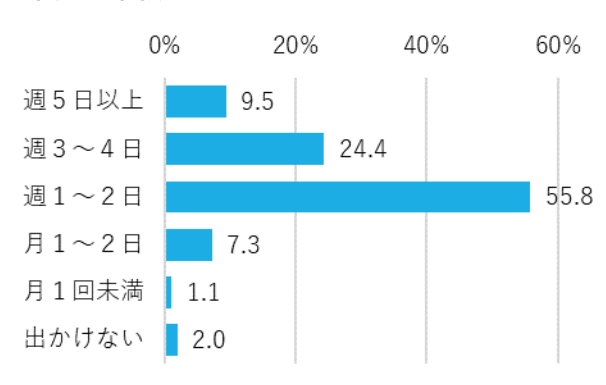


行き先

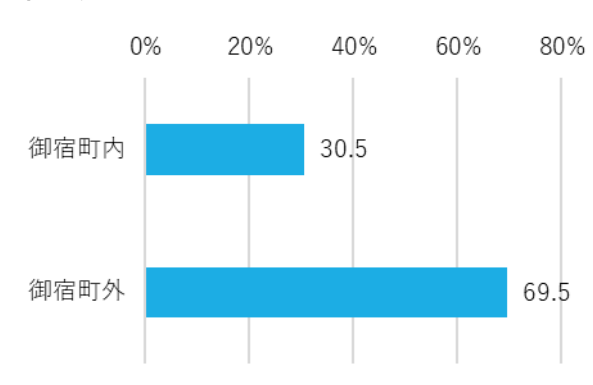


【買物】(n=511)

お出かけ回数



行き先



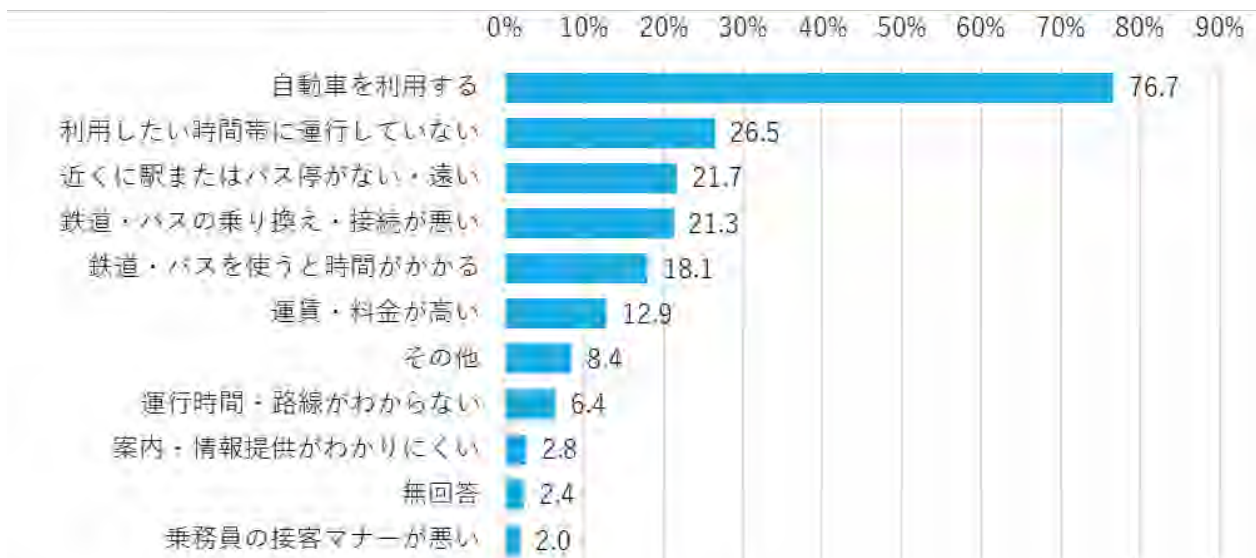
【公共交通の利用実態】

- ・公共交通の利用実態について、30歳代～60歳代では「利用したいと思わない・利用しない」が最も多い一方、10歳代では「日常的に利用している（75.0%）」が最も多く、70歳代、80歳代以上では「現在は利用していないが、今後利用したい」が最も多い。また、「現在は利用していないが、今後利用したい」は年齢が上がるにつれて割合が増えている。
- ・エリア別に見ると、全てのエリアで「利用したいと思わない・利用しない」が最も多い。また「現在は利用していないが、今後利用したい」と回答した方は里海エリアが最も多い。
- ・公共交通を利用しない・利用しなくなった理由としては、「自動車を利用する（76.7%）」が最も多く、次いで「利用したい時間帯に運行していない（26.5%）」「近くに駅またはバス停がない・遠い（21.7%）」となっている。

■公共交通の利用状況

	全体	年齢別								エリア別			
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	まちなか	御宿台	里山	里海
n	511	4	28	51	86	79	109	149	3	187	118	62	138
日常的に利用している	16.8	75.0	28.6	15.7	11.6	24.1	15.6	13.4	33.3	21.4	16.9	14.5	12.3
最近になって利用しはじめた	2.7	0.0	3.6	2.0	2.3	2.5	2.8	3.4	0.0	4.8	0.8	1.6	2.2
現在は利用していないが、今後利用したい	20.2	0.0	7.1	9.8	11.6	19.0	21.1	30.9	33.3	18.2	18.6	21.0	23.9
利用していたが、利用するのをやめた	13.9	0.0	35.7	25.5	14.0	12.7	14.7	6.0	0.0	13.9	15.3	17.7	10.9
利用したいと思わない・利用しない	28.4	0.0	17.9	41.2	44.2	34.2	23.9	18.8	0.0	25.1	28.0	24.2	34.8
どのように運行しているかわからないので利用しない（利用できない）	6.5	25.0	3.6	3.9	9.3	3.8	7.3	6.7	0.0	4.3	9.3	8.1	5.8
無回答	11.5	0.0	3.6	2.0	7.0	3.8	14.7	20.8	33.3	12.3	11.0	12.9	10.1

■利用しない・利用しなくなった理由（n=249）



(2) ワークショップ

持続可能なまちづくりにおける公共交通の維持・確保を図るため、各地域の現状・問題点など公共交通に関する意見を聞き、御宿町の将来の公共交通のあり方を検討する。また、参加者同士の意見交換の中で、地域別・属性別のニーズや真に公共交通を必要としている地域ニーズの把握をねらいとして、以下の通りワークショップを開催した。

実施方法	グループインタビュー方式 ・生活・移動パターンに分類し、話しやすい雰囲気を作り出すため、地域別（①まちなかエリア②御宿台エリア③里山エリア④里海エリア）のグループ編成とする。 ・地域別に「日常生活の困りごと」「困りごとを解決するための方法」「その中で地域の皆さんができること」の3テーマについて意見交換を実施。
実施概要	① まちなかエリア 【日時】令和5年11月26日（日） 9:00～11:00 【場所】御宿町役場 【参加者】5名 （エビアミー号利用者・登録者、子育て世代、移住者、中学生） ② 御宿台エリア 【日時】令和5年11月26日（日） 9:00～11:00 【場所】御宿町役場 【参加者】3名（エビアミー号利用者、ボランティア、移住者） ③ 里山エリア 【日時】令和5年11月26日（日） 13:30～15:30 【場所】御宿町役場 【参加者】4名（エビアミー号利用者、ボランティア、移住者、中学生） ④ 里海エリア 【日時】令和5年11月26日（日） 13:30～15:30 【場所】御宿町役場 【参加者】4名（ボランティア、観光関連団体、子育て世代、中学生）

① まちなかエリア

日時	令和5年11月26日(日) 9:00~11:00
場所	御宿町役場
参加者数	5人
内容	<p>■日常生活の困りごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビアミー号の予約が面倒。 ・エビアミー号で希望の時間帯に着くことが出来ない。 ・エビアミー号では大原や勝浦に行くことができない。 ・特急が全て指定席になり料金が高くなってしまう。 ・御宿駅にエレベーターがない。 ・御宿駅には券売機がないため、勝浦駅まで行かなければならない。 ・車や自転車ではしか行けない所が多い。 ・B&G までの移動手段がない。 ・道路が怖い。 <p>■困りごとを解決するための方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環型の方が使いやすい。 ・予約なしで乗れるようにしてほしい。 ・エビアミー号を御宿以外にも定期的に。 ・勝浦にもエビアミー号を運行。少し高くでも利用する。 ・エビアミー号2号で定時運行を行う。 ・子どもたちも安全に出掛けられる。 ・現金以外も使えるようにする。 ・駅のスロープ化。 ・シェアサイクルやシルバーカーのレンタル。 <p>■地域の皆さんができること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの配布等情報発信。小学校に情報発信。 ・エビアミー号の使い方の説明が載っていると分かり易い。

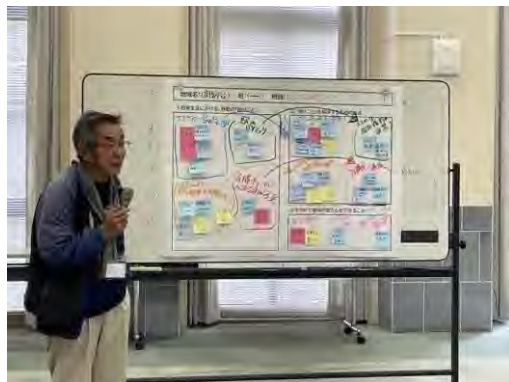


《まちなかエリアの主な意見》

○近隣市への移動利便性の向上 ○定時運行型の移動手段の導入 ○御宿駅のバリアフリー化

②御宿台エリア

日時	令和5年11月26日(日) 9:00~11:00
場所	御宿町役場
参加者数	3人
内容	<p>■日常生活の困りごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビアミー号は自由に乗り降りできるようにしてほしい。 ・エビアミー号を鉄道の時間に合わせて欲しい。 ・エビアミー号が運行していない時間帯がある。(13時~15時、16時~19時) ・エビアミー号の停留所が少ない。 ・駅にエレベーターがない。駅のエレベーターが必要。 ・近隣市までの公共交通が不便。近隣市への移動が不便(保健所等)。 ・100歳になっても自家用車を手放せない。 ・退職者のまち。近所付き合いがあまりない。 ・介護タクシーが高い。 ・住民の高齢化。地域社会とのつながりの希薄化。 ・高齢化。身体の動きが不自由になり何かと困る。 <p>■困りごとを解決するための方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビアミー号を2台にする。 ・エビアミー号の時間帯の見直し。(6時半~21時) ・御宿駅のエレベーター設置。横断の踏切設置。 ・大原、勝浦との協力体制の強化。 ・大原駅、勝浦駅を利用する場合のみ料金300円で送迎。 ・ライドシェアの導入。 ・介護タクシーやエビアミー号の80歳以上無料。 <p>■地域の皆さんができること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協賛金を募る。 ・人と車の提供。組織作り。

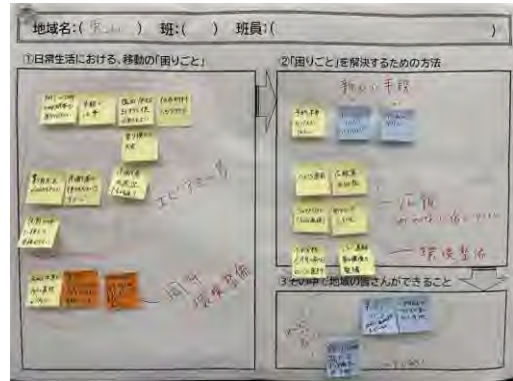
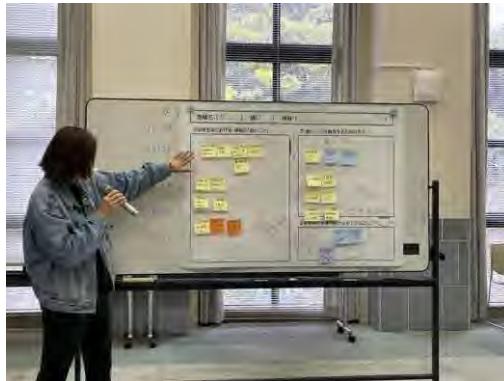


《御宿台エリアの主な意見》

○近隣市への移動利便性の向上 ○高齢者の移動手段の確保 ○御宿駅のバリアフリー化

③里山エリア

日時	令和5年11月26日(日) 13:30~15:30
場所	御宿町役場
参加者数	4人
内容	<p>■日常生活の困りごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間の時間帯にエビアミー号の運行がない。 ・エビアミー号の本数が少ない。 ・塩田病院等、他市町村へのアクセスが不便。 ・高齢者にとっては鉄道とバスの乗り換えが大変。 ・エビアミー号は高齢者が使うものというイメージがある。利用方法が分からない。 ・急用の時に使える手段がない。 ・雨の日は車が多く、事故が多い。 ・道路に穴が開いている。中学生が通る道にスピードを出して車を運転する人がいる。 <p>■困りごとを解決するための方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予約不要のバスの運行。 ・カーシェア、シェアサイクリング。 ・乗合タクシーの運行。 ・SNSの運用等による情報発信。 ・道路環境の整備。 ・小中学校が合併するので、雨の日のバス運行。 <p>■地域の皆さんができること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性の担保がされている車や自動車の寄贈。 ・表示をつくる。町の生活者に会った条例。

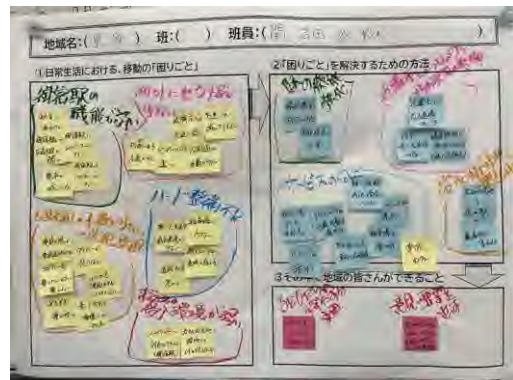
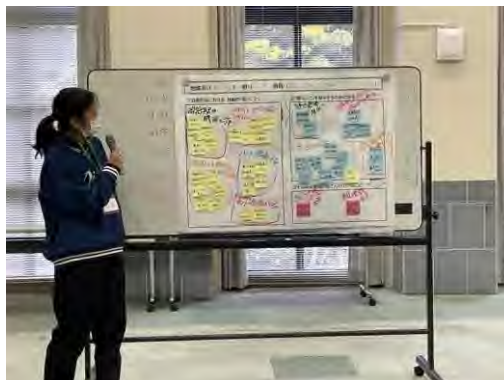


《里山エリアの主な意見》

- 近隣市への移動利便性の向上
- 公共交通に関する情報発信の強化
- 道路環境の整備

④里海エリア

日時	令和5年11月26日(日) 13:30~15:30
場所	御宿町役場
参加者数	4人
内容	<p>■日常生活の困りごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御宿駅に駅員がない。 ・御宿駅からの交通手段が弱い。 ・御宿駅にエレベーターがない。 ・御宿駅の賑わいが無い。電車が減っている。 ・近隣市への交通が弱い。 ・駅や公民館等待合環境がない。 ・道路環境が悪い。 ・駐車場が少ない。 ・インバウンドに対応できていない。 ・岩和田団地跡地を何か使えないか。 ・事故は怖いが免許返納ができない。 ・タクシーが足りない。 ・乗りたい時に乗れる交通手段がない。 <p>■困りごとを解決するための方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線路横断のための踏切の設置。 ・近隣市との連携強化。 ・岩和田団地の拠点化。 ・待合環境の整備。 ・エビアミー号の子ども無料化。 ・スクールバスの運行。 <p>■地域の皆さんができること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビアミー号のデザインを中学生が考える。



《里海エリアの主な意見》

- 近隣市への移動利便性の向上
- 御宿駅の機能強化・賑わいの創出
- 結節点等の待合環境整備

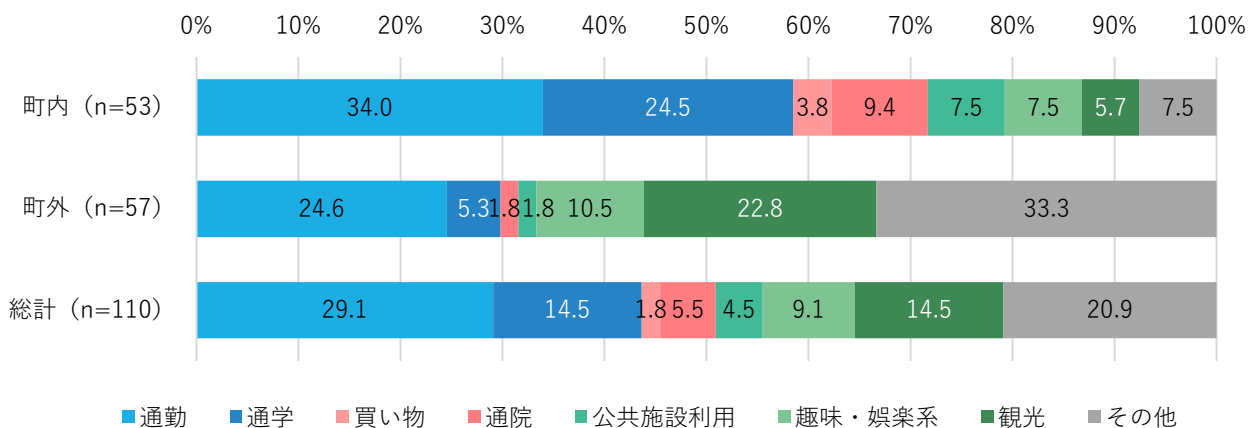
(3) 公共交通の利用者に対するアンケート調査

① 鉄道利用者

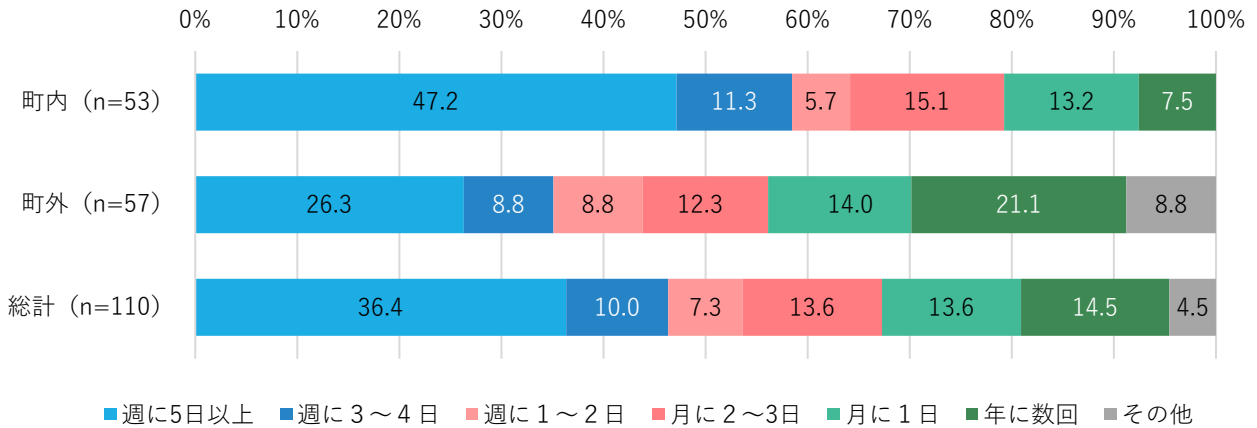
調査概要	【日時】 令和5年7月19日(水) 6:00~20:00 【場所】 御宿駅 【方法】 調査員が駅利用者に対し直接ヒアリング			
回答数	n=110			
内訳	【性別】			
	男性	57 (51.8%)	女性	53 (48.2%)
	【年齢】			
	10歳代	15 (13.6%)	50歳代	14 (12.7%)
	20歳代	18 (16.4%)	60歳代	18 (16.4%)
	30歳代	9 (8.2%)	70歳代	15 (13.6%)
	40歳代	15 (13.6%)	80歳代以上	5 (4.5%)
			無回答	1 (0.9%)
	【住まい】			
	町内	53 (48.2%)	町外	57 (51.8%)

- ・利用目的は町内外ともに「通勤」が最も多く、次いで町内では「通学(24.5%)」、町外では「観光(22.8%)」となっている。
- ・利用頻度は町内外ともに「週に5日以上」が最も多く、特に町内では47.2%と半数近くを占めている。
- ・満足度は、総合的には満足度(満足+やや満足)が40.0%となっている。項目別に見ると、「運行本数」と「運行時間帯」が他の項目と比較して不満足度(不満+やや不満)が高く、満足度が低い傾向にあり、「運行時刻の定時制(正確さ)」は満足度が高く不満足度が低い傾向にある。
- ・鉄道に対する要望としては、「運行時間帯の拡大」「運行本数の増便」がいずれも50.0%以上となっている。その他としては、エスカレーターやエレベーターの設置に関する意見が多い。

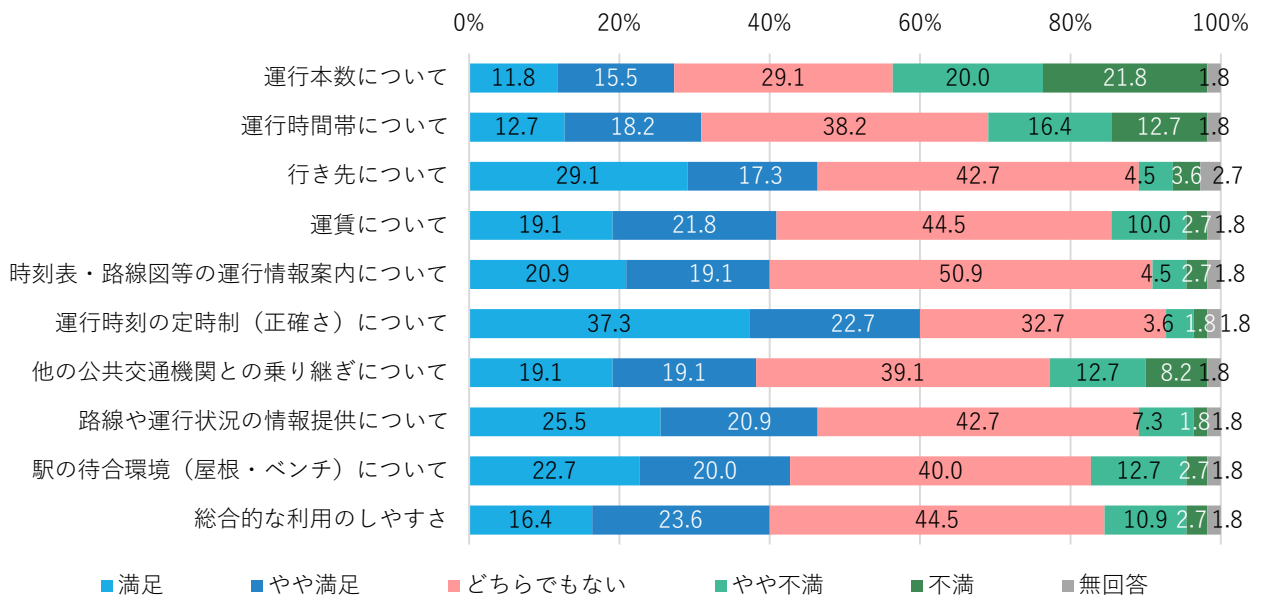
■ 利用目的



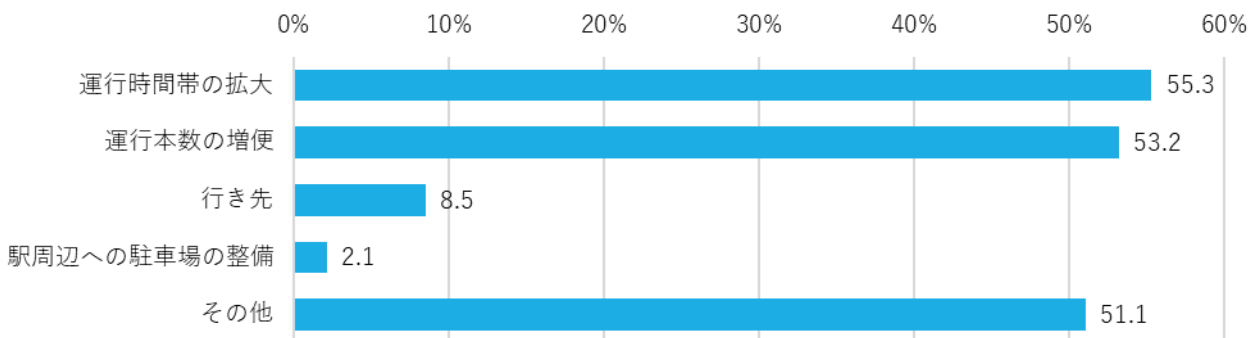
■利用頻度



■満足度 (n=110)



■鉄道に対する要望 (n=110)

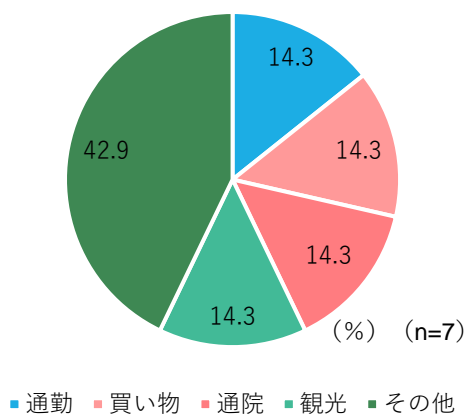


②高速バス利用者

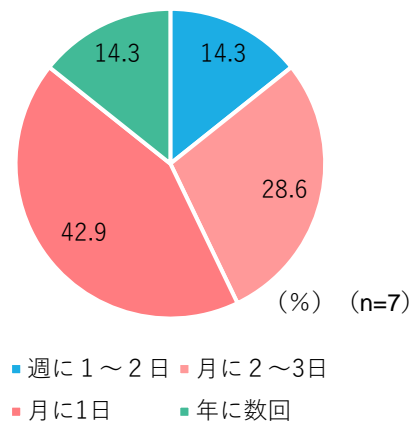
調査概要	【日時】 令和 5 年 7 月 19 日 (水) 6:00~20:00 【場所】 御宿町公民館 【方法】 調査員が駅利用者に対し直接ヒアリング			
回答数	n=7			
内訳	【性別】			
	男性	0 (0.0%)	女性	7 (100.0%)
	【年齢】			
	40 歳代	1 (13.6%)	70 歳代	2 (29.0%)
	50 歳代	1 (14.3%)	80 歳代以上	2 (29.0%)
60 歳代	1 (14.3%)			
【住まい】				
	町内	2 (29.0%)	町外	5 (71.4%)

- ・利用目的は「通勤」が最も多く、次いで「買い物」「通院」「観光」、その他では「別荘への避暑」等が挙げられている。
- ・利用頻度は「月に1回 (42.9%)」が最も多く、次いで「月に2~3日 (28.6%)」となっている。
- ・高速バスへの要望としては「運行本数の拡大」や「行き先」といった声が挙げられている。

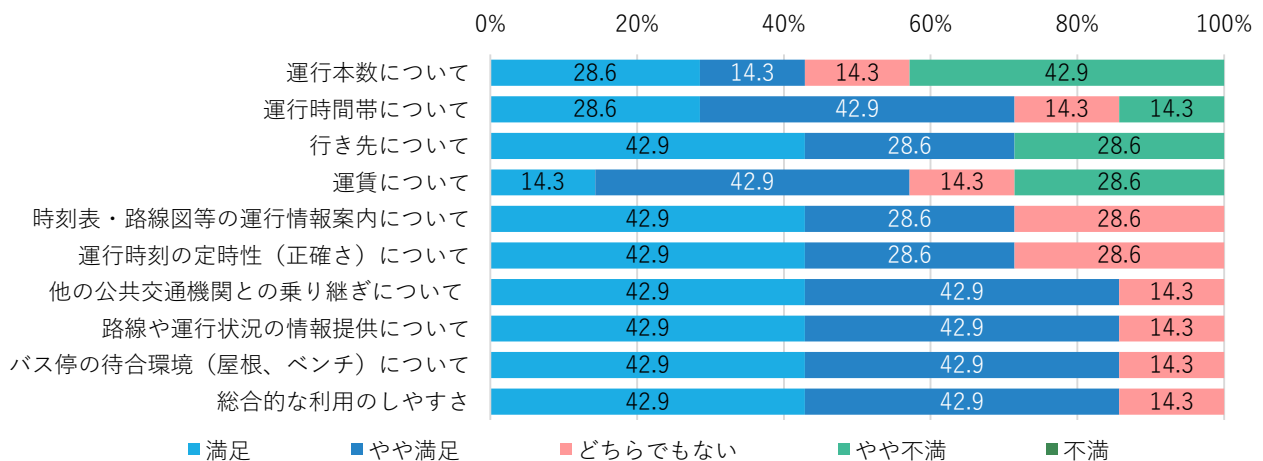
■目的



■利用頻度



■満足度 (n=7)



③路線バス利用者

調査概要	【日時】 令和5年7月19日(水) 8:00~15:30 【場所】 御宿駅 【方法】 調査員が駅利用者に対し直接ヒアリング			
回答数	n=2 (※うち1名は回答途中)			
内訳	【性別】			
	男性	1 (50.0%)	女性	1 (50.0%)
	【年齢】			
40歳代	1 (50.0%)	80歳代以上	1 (50.0%)	
内訳	【住まい】			
	町外	1 (50.0%)	無回答	1 (50.0%)

- ・利用目的は「趣味・娯楽」と「通院」となっている。
- ・頻度は「初めての利用」が1名
- ・路線バスに対する要望等は特になし。

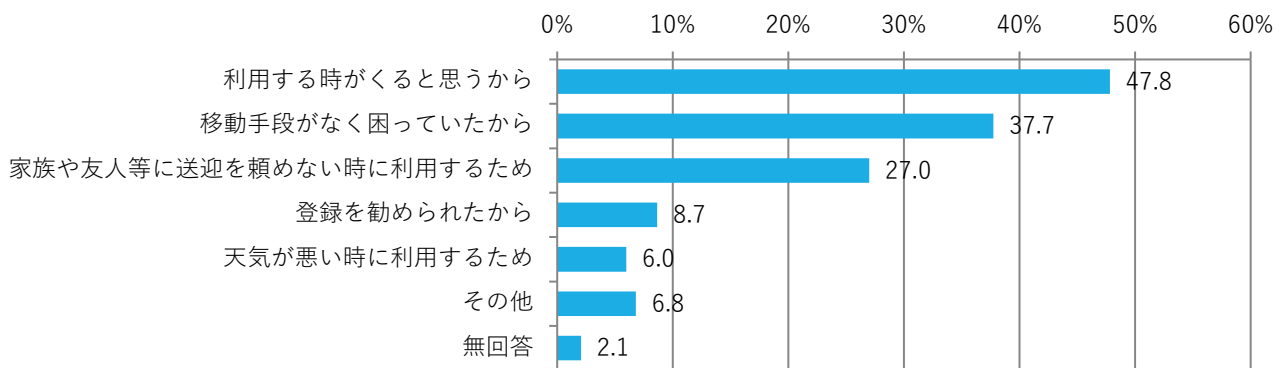
④エビアミー号登録者

調査概要	【日時】 令和5年7月17日(月)～7月31日(月) 【方法】 郵送配布・郵送回収 【対象】 エビアミー号登録者 895名(世帯数613世帯)			
回答数	n=485(回答率:54.1%)			
内訳	【性別】			
	男性	176(36.3%)	無回答	16(3.3%)
	女性	293(60.4%)		
	【年齢】			
	10歳代	9(1.9%)	50歳代	32(6.6%)
	20歳代	3(0.6%)	60歳代	48(9.9%)
	30歳代	4(0.8%)	70歳代以上	374(77.1%)
40歳代	9(1.9%)	無回答	6(1.2%)	
【住まい】				
まちなか	51(10.5%)	里海	78(16.1%)	
御宿台	290(59.8%)	無回答	2(0.4%)	
里山	64(13.2%)			
【職業】				
会社員・公務員	23(4.7%)	パート・アルバイト	25(5.2%)	
自営業	7(1.4%)	無職	304(62.7%)	
学生	11(2.3%)	その他	15(3.1%)	
専業主婦(夫)	87(17.9%)	無回答	13(2.7%)	
【自動車運転免許の有無】				
ある	221(45.6%)	運転免許返納済	66(13.6%)	
ない	187(38.6%)	無回答	11(2.3%)	

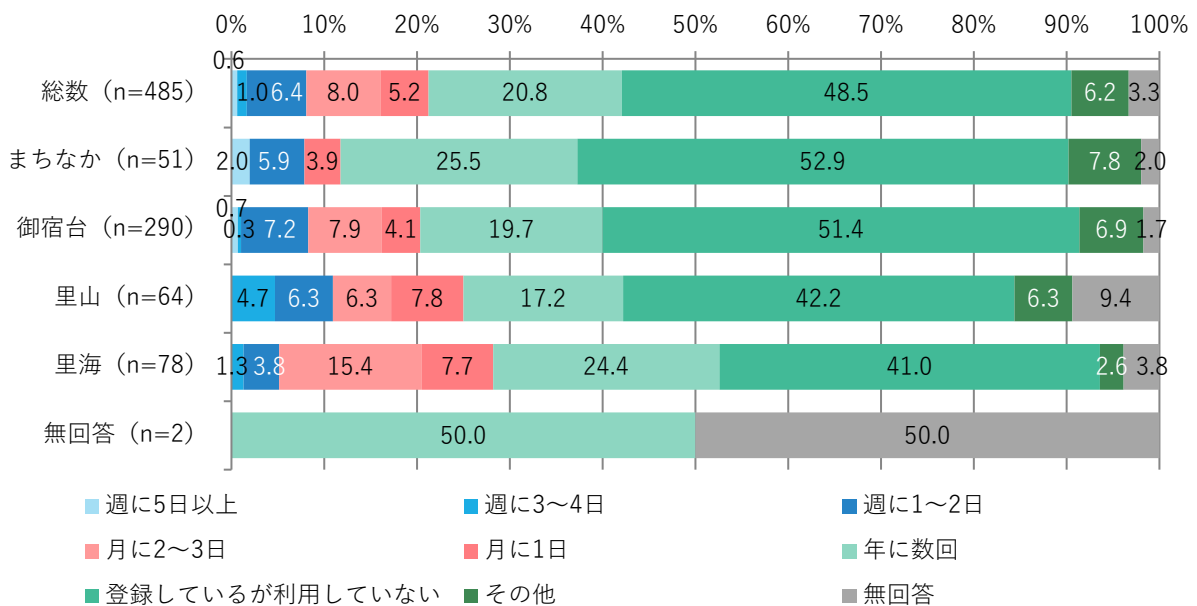
【エビアミー号登録者の利用状況、利用意向】

- ・登録理由は「利用する時がくると思うから (47.8%)」が半数近くを占めており、次いで「移動手段がなく困っていたから (37.7%)」「家族や友人等に送迎を頼めない時に利用するため (27.0%)」となっている。
- ・利用頻度は「利用していない」が48.5%と半数近く、次いで「年に数回 (20.8%)」と利用頻度が低い状況となっている。地区別に見ると、「里海」が最も利用率が高く52.6%、最も利用率が低いのは「まちなか」で37.3%となっている。一方で、エビアミー号の登録者数は御宿台エリアの居住者が全体の半数以上を占めており、利用者数では御宿台が最も多いと考えられる。
- ・運行便数については、全体として40.6%が「現行どおりでよい」と回答する一方、特に御宿台では「もっと遅い時間まで運行してほしい」「もっと早くから運行し、もっと遅くまで運行してほしい」という回答も多い。
- ・満足度は、「運行時間帯」の不満足度（不満+やや不満）が38.1%と他の項目と比較して高い。
- ・期待することは「予約がなく利用できること (47.6%)」が最も高く、次いで「運行時間帯が拡大すること (43.7%)」、「乗降地点が拡大されること (34.8%)」となっている。

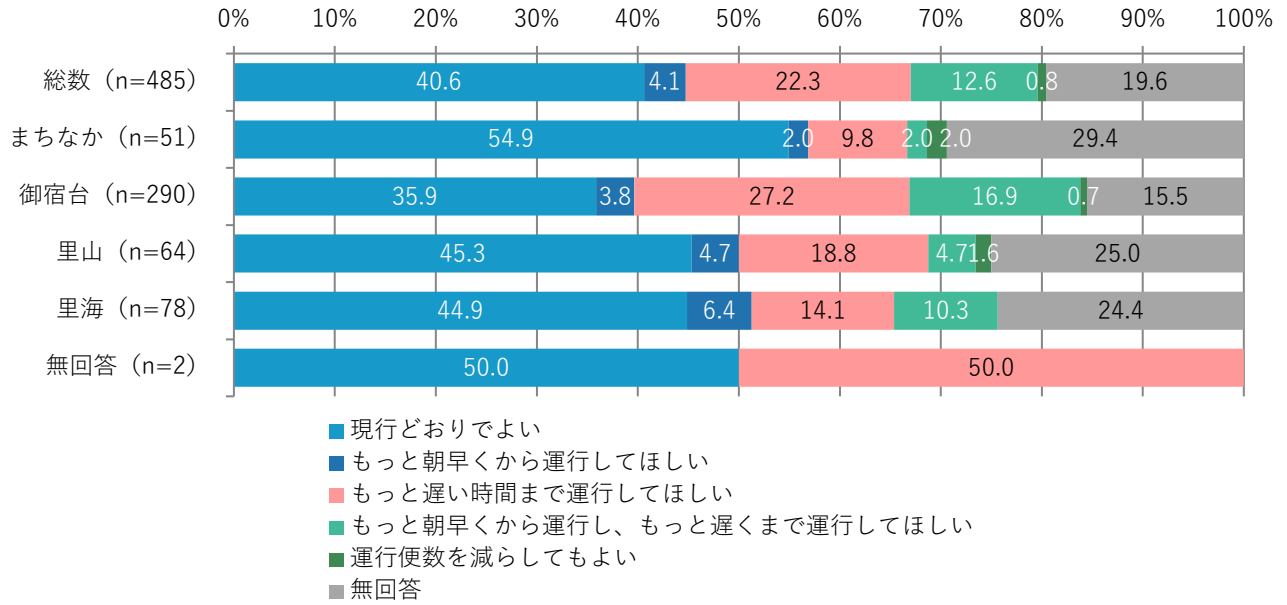
■エビアミー号の利用者登録をした理由 (n=485)



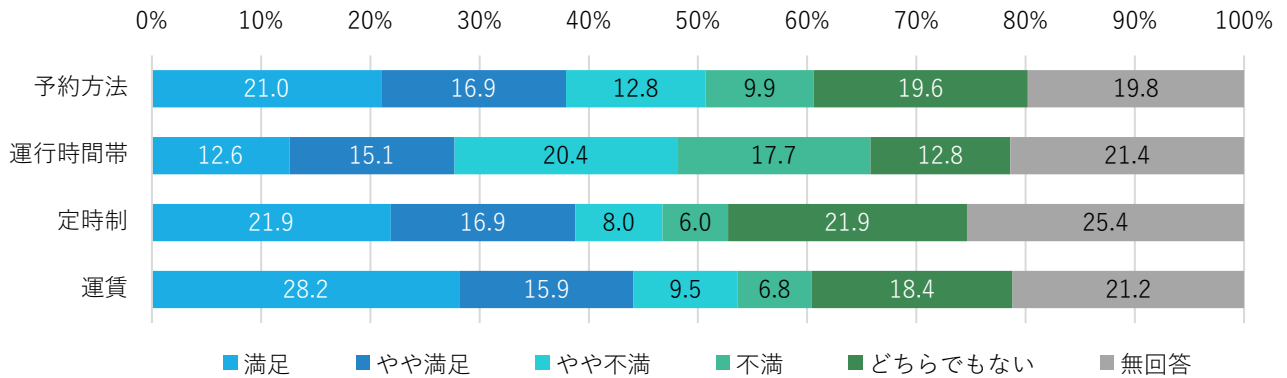
■利用頻度



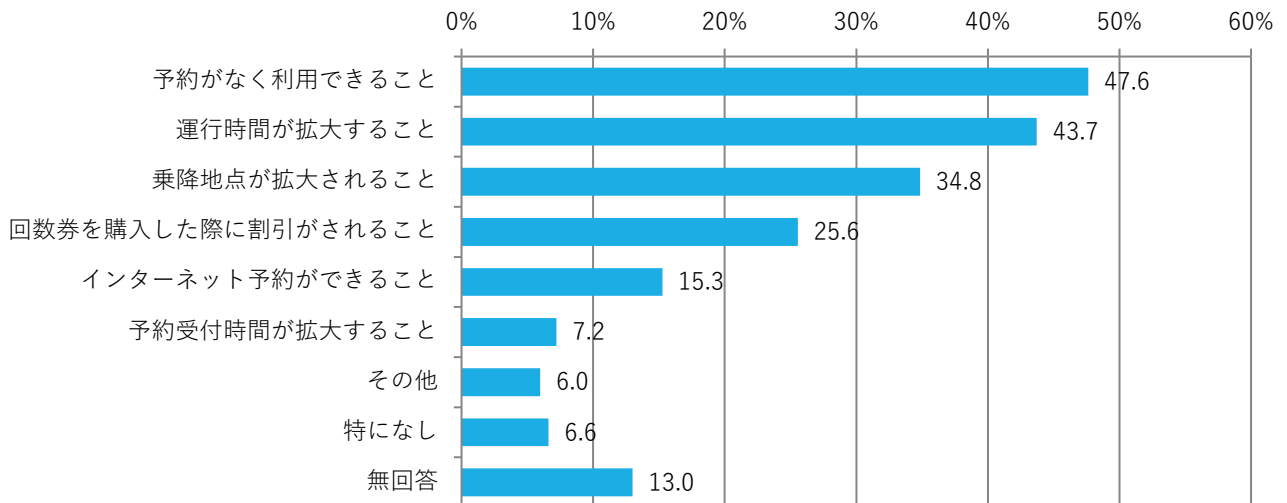
■運行便数についての考え



■エビアミー号の満足度 (n=485)



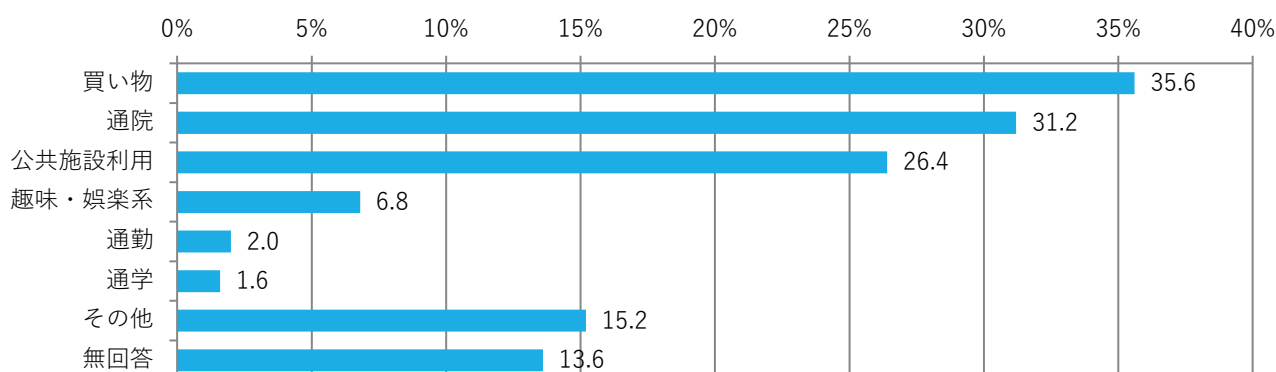
■エビアミー号に期待すること (n=485)



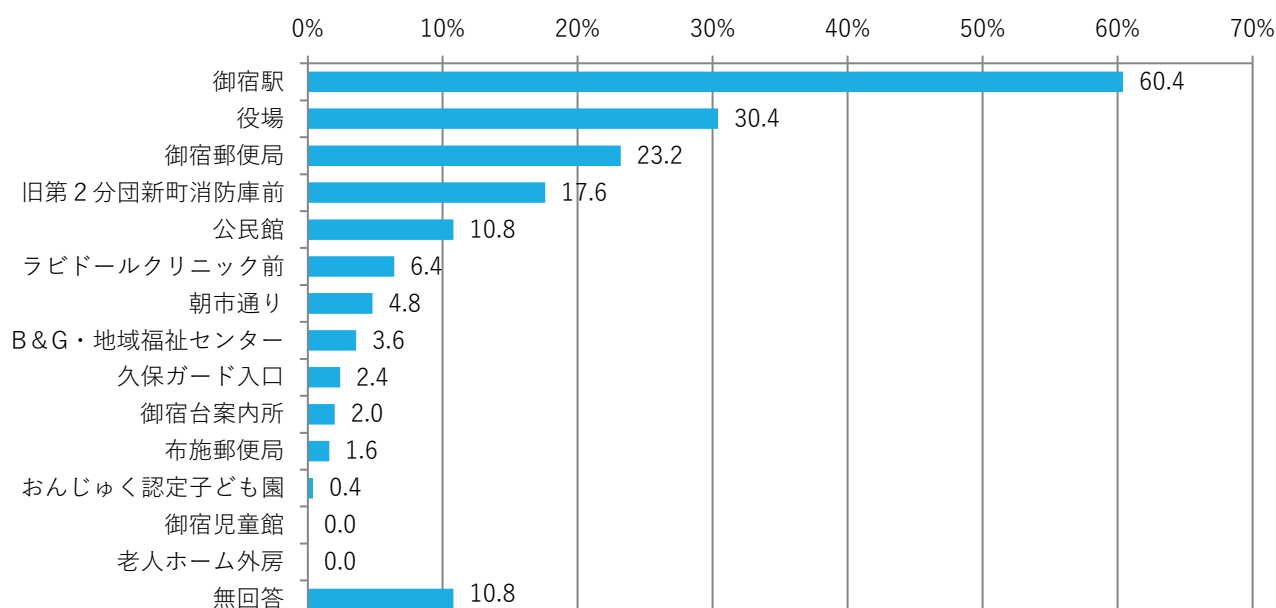
【エビアミー号利用者の利用状況】

- ・利用目的は、「買い物（35.6%）」と「通院（31.2%）」がいずれも半数近く占めている。
- ・主な目的地は「御宿駅（60.4%）」が最も多く、次いで「役場（30.4%）」「御宿郵便局（23.2%）」となっており、スーパーおたや前の「旧第2分団新町消防庫前（17.6%）」の一定数の利用がある。
- ・利用方法は「片道利用（57.2%）」が「往復利用（28.8%）」よりも多く、特にまちなかや御宿台では片道利用率が高い。片道利用の理由としては「利用したい時間帯に運行していないから（66.4%）」や「事前予約ができなかったから（26.6%）」等が挙げられている。
- ・エビアミー号が利用できない時の代替交通手段としては、「タクシーを利用する（60.8%）」が最も多く、次いで「自転車や徒歩で移動する（29.6%）」、「家族（親族）や知人・友人の方の自動車ですてもらう（27.6%）」となっている。
- ・エビアミー号の位置情報配信サービスについて、「利用したことがある」は21.2%にとどまっている。利用したことがない理由は「サービスを知らないから（43.2%）」「利用の仕方が分からないから（29.0%）」等が挙げられている。
- ・今後のエビアミー号の利用意向としては「今後も変わらず利用したい（62.0%）」「利用回数が増えると思う（10.0%）」が多い一方、「利用回数が減ると思う（2.4%）」「そのうち利用しなくなると思う（3.6%）」といった回答も見られる。

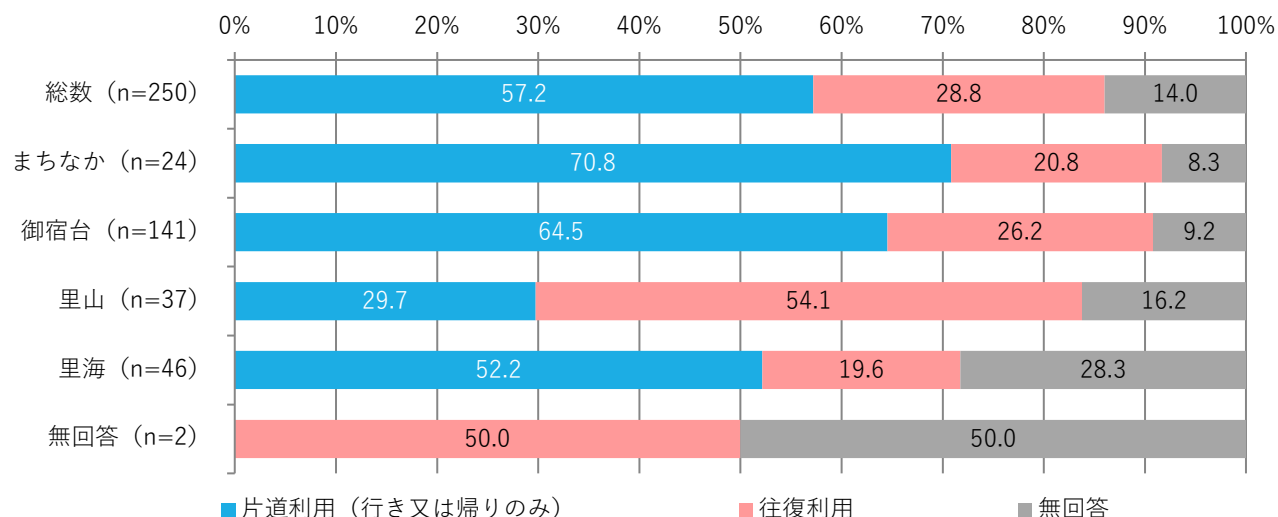
■利用目的（n=250）



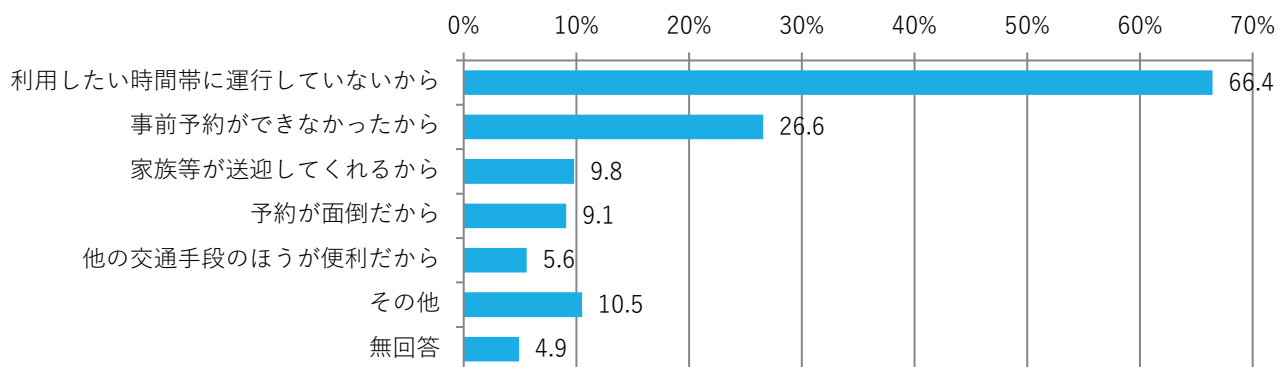
■主な目的地（n=250）



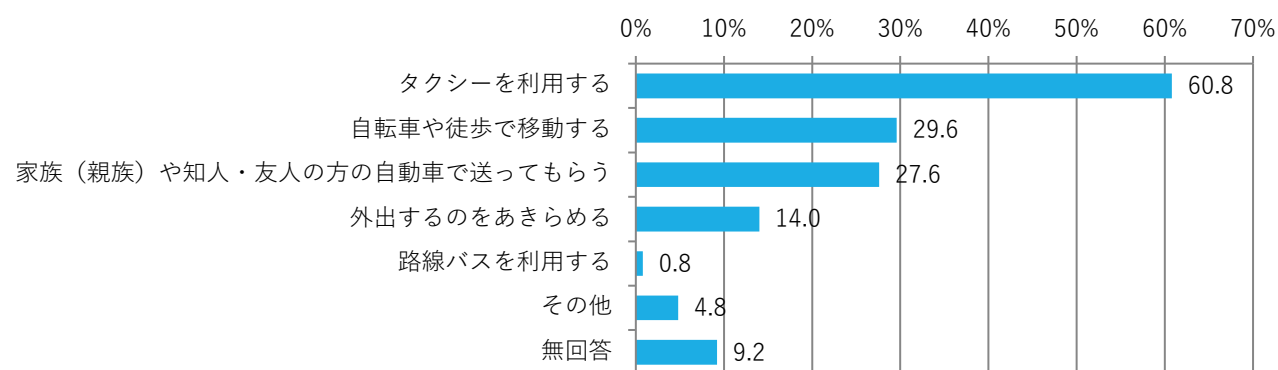
■利用方法



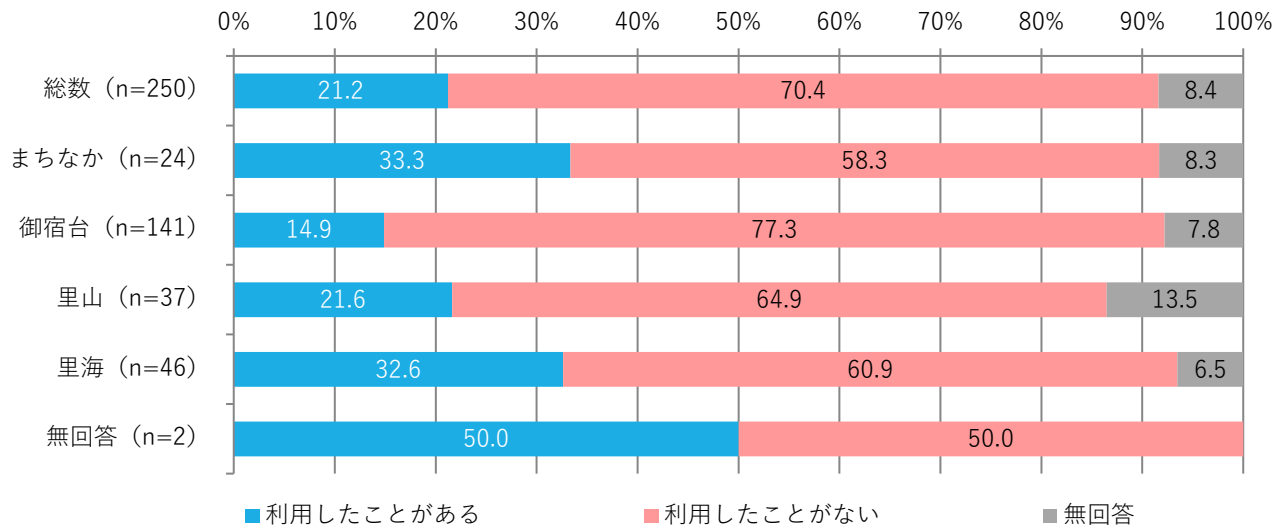
■往復利用しない理由 (n=143)



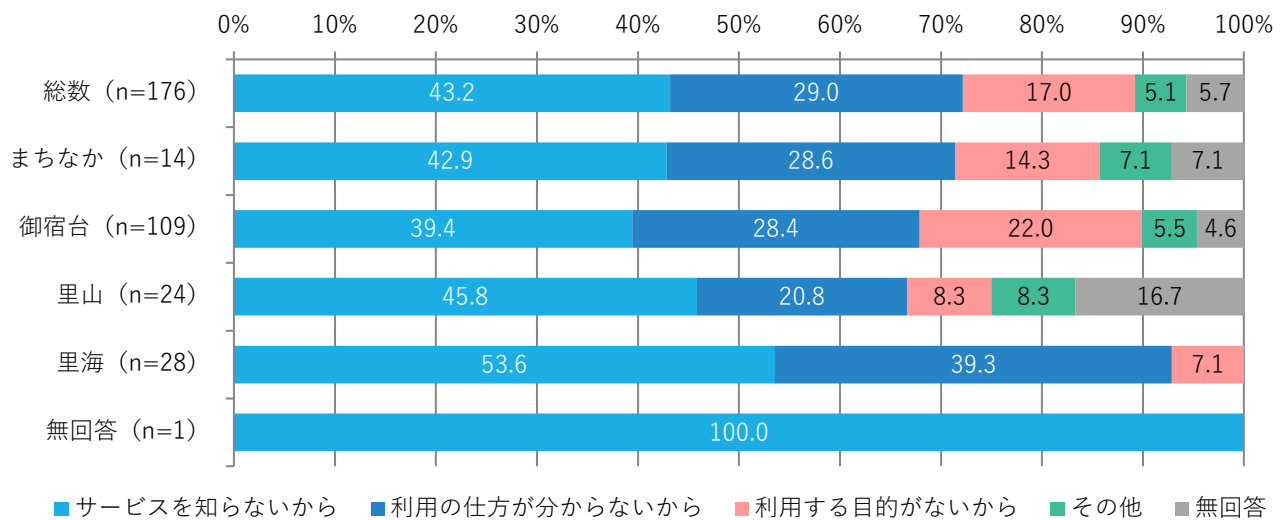
■エビアミー号が利用できない時の代替移動手段 (n=250)



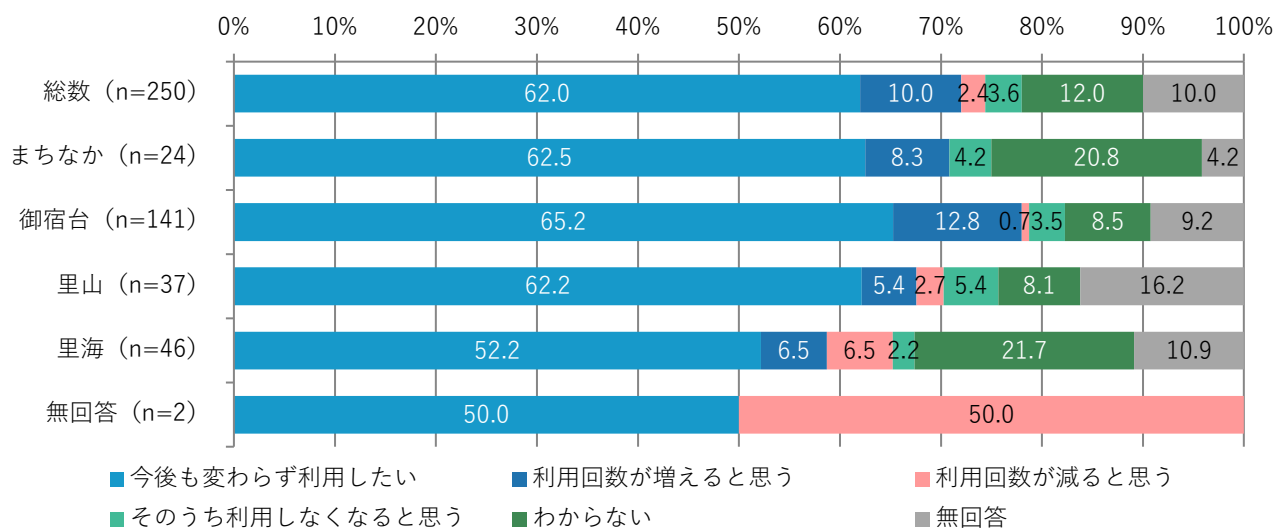
■位置情報サービスの利用有無



■位置情報サービスを利用したことがない方の理由



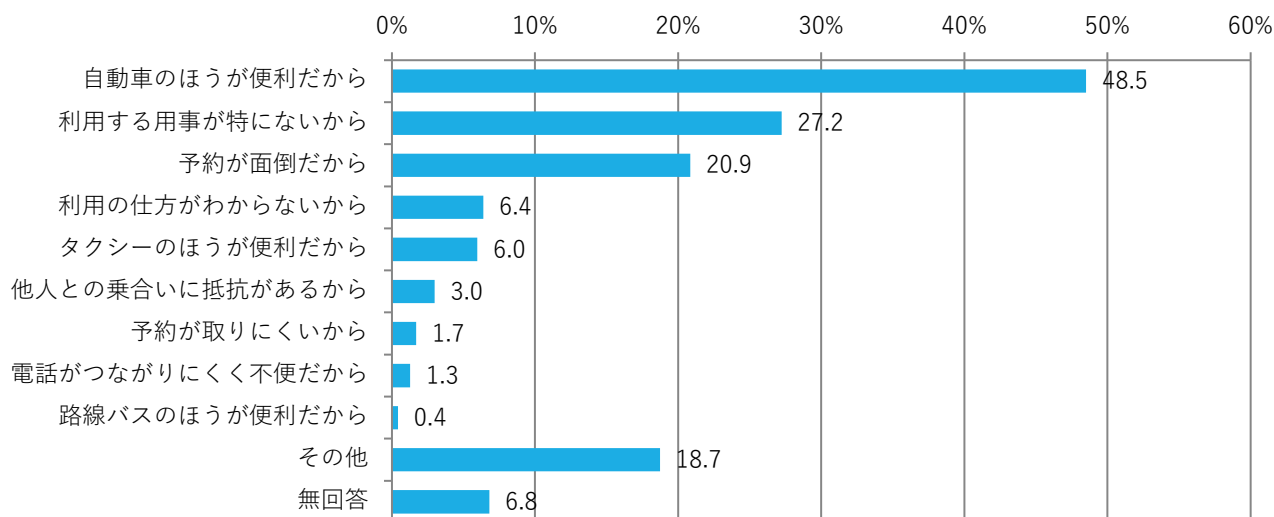
■今後の利用意向



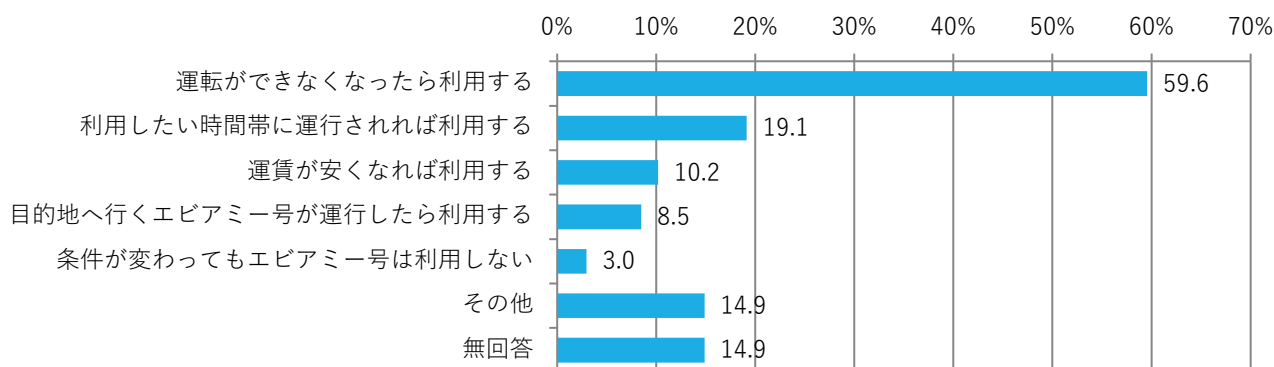
【エビアミー号非利用者の意向】

- ・エビアミー号に利用登録をしているが利用はしていない方の理由としては、「自動車のほうが便利だから（48.5%）」が半数を占めており、次いで「利用する用事が特にないから（27.2%）」「予約が面倒だから（20.9%）」となっている。
- ・利用するための条件としては「運転ができなくなったら利用する（59.6%）」が最も多く、「利用したい時間帯に運行されれば利用する（19.1%）」「運賃が安くなれば利用する（10.2%）」となっている。

■利用しない理由（n=235）



■エビアミー号を利用するための条件（n=235）



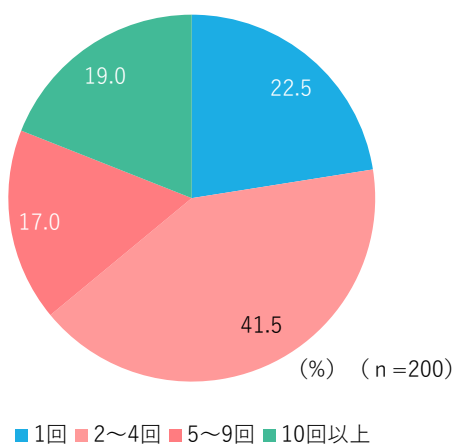
(4) 旅行者アンケート調査

調査概要	【日時】 令和5年7月14日（金）～令和5年7月19日（水） 【方法】 WEB アンケート 【対象】 東京都、千葉県（御宿町を除く）、神奈川県居住で御宿町に訪れたことがある方			
回答数	n=200			
内訳	【性別】			
	男性	129 (64.5%)	女性	71 (35.5%)
	【年齢】			
	20歳代以下	21 (10.5%)	50歳代	59 (29.5%)
	30歳代	25 (12.5%)	60歳代以上	55 (27.5%)
40歳代	40 (20.0%)			
内訳	【住まい】			
	東京都	89 (44.5%)	神奈川県	43 (21.5%)
	千葉県	68 (34.0%)		
内訳	【自動車運転免許の有無】			
	ある	183 (91.5%)	運転免許返納済	2 (1.0%)
	ない	15 (7.5%)		

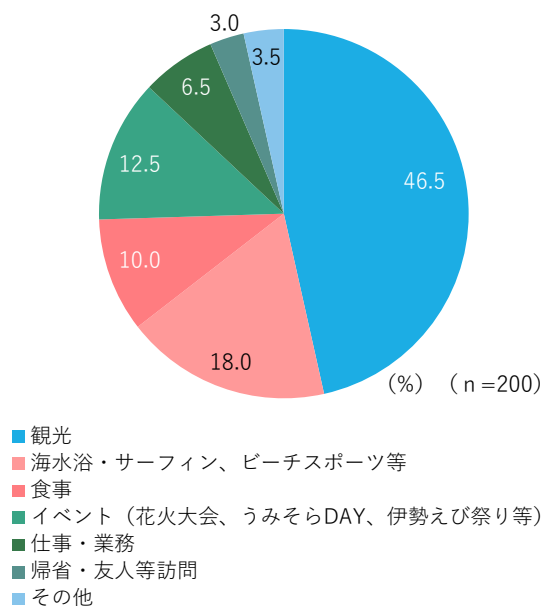
【御宿町への来訪状況】

- ・ 来訪回数は「2～4回（41.5%）」が最も多い。
- ・ 来訪目的は「観光（46.5%）」が半数を占めており、来訪先としては「月の沙漠記念館（56.2%）」「御宿ウォーターパーク（42.3%）」「中央海水浴（39.2%）」となっている。
- ・ 来訪時の交通手段は、「自家用車（77.5%）」が最も多く、次いで「鉄道（30.5%）」「高速バス（11.5%）」となっている。

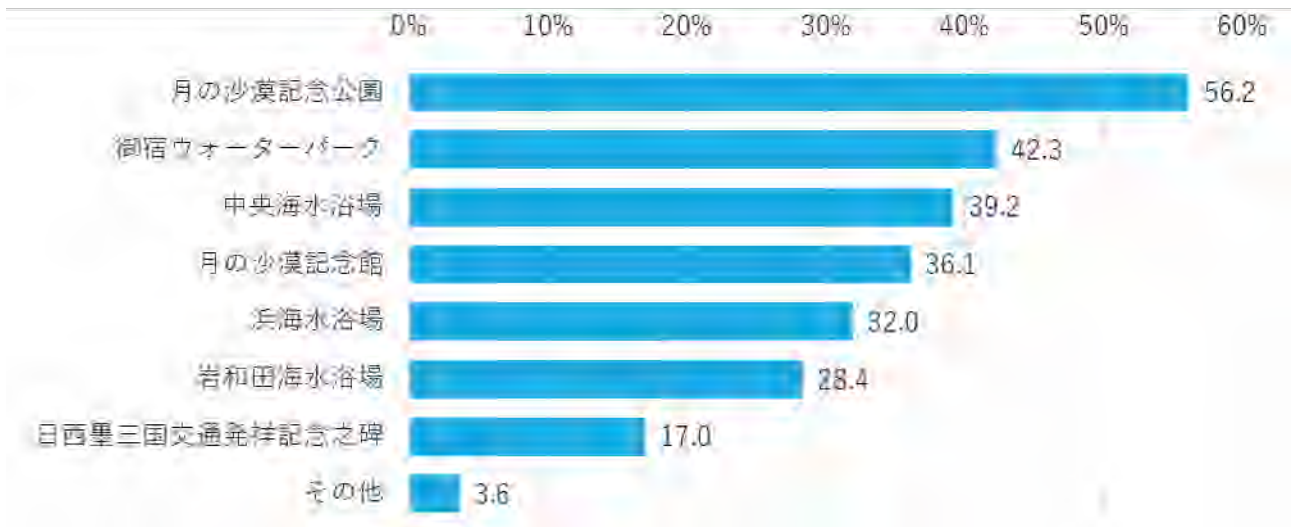
■ 来訪回数 (n=200)



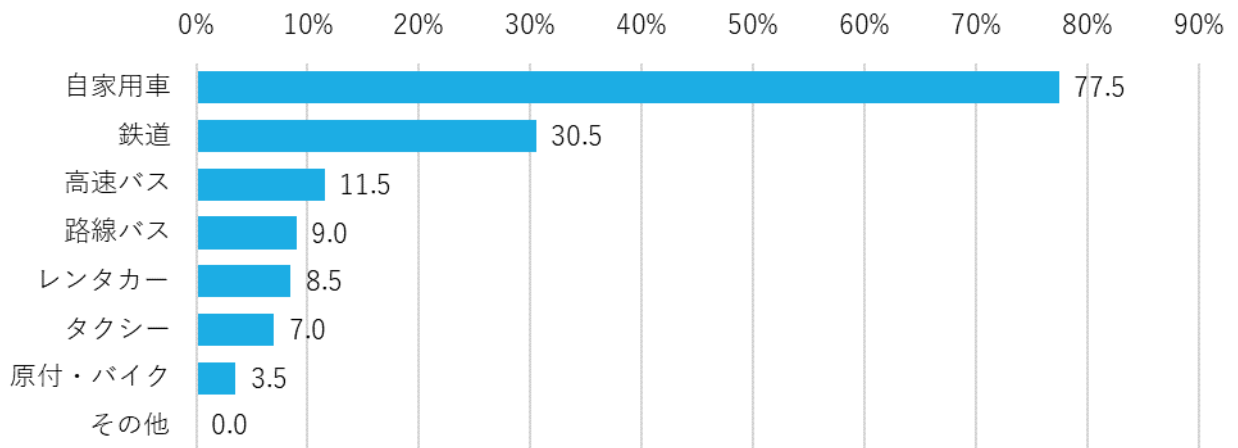
■ 来訪目的 (n=200)



■ 来訪先 (n=200)



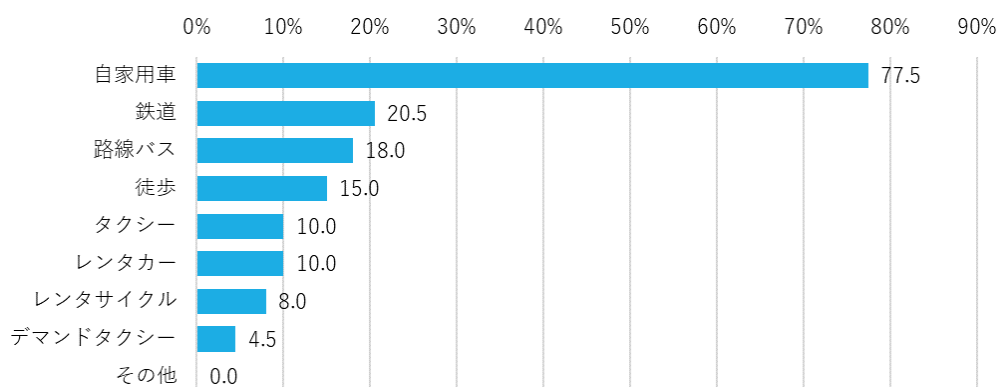
■ 来訪時の交通手段 (n=200)



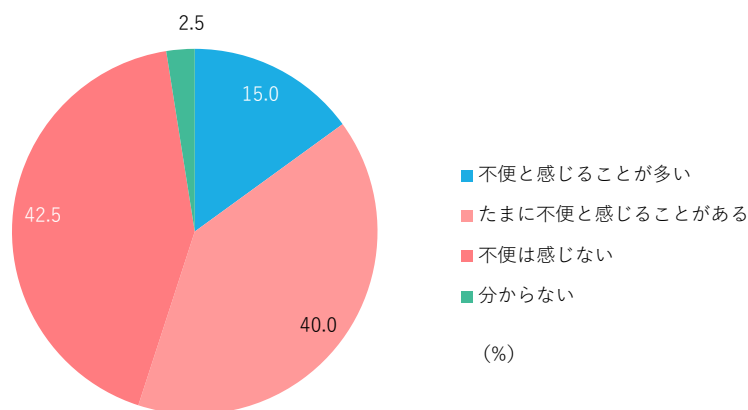
【観光周遊する際の不便度や必要情報・サービス】

- ・観光周遊する際の交通手段は、「自家用車（77.5%）」が最も多く、次いで「鉄道（20.5%）」「路線バス（18.0%）」となっている。
- ・移動時に不便を感じることの有無としては、「不便を感じることが多い」「たまに不便と感ずることがある」と回答した方が全体の55.0%となっており、半数以上が不便を感じたことがある結果となっている。
- ・必要な情報やサービスは「観光地のモデルコースの紹介など情報案内等の充実（41.5%）」、次いで「観光地等でのイベントや施設情報などの統一的な情報の提供（38.5%）」となっている。

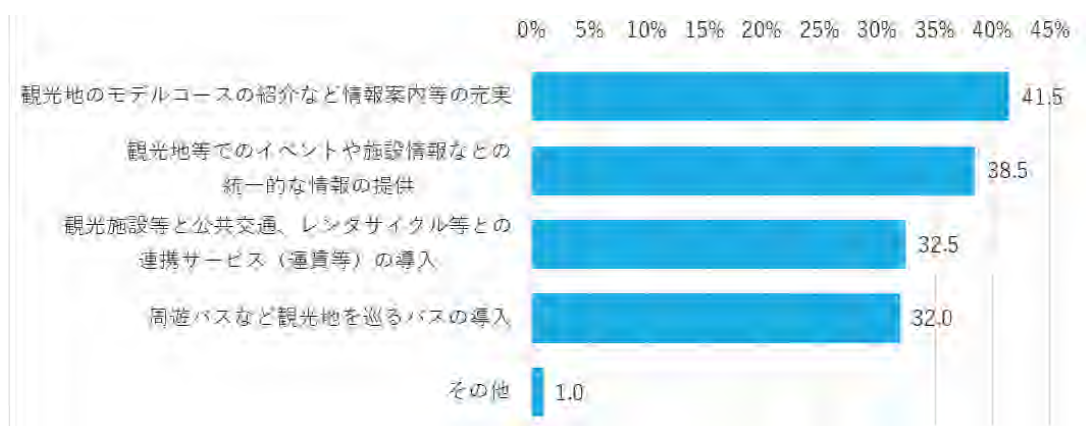
■周遊の際の移動手段（n=200）



■移動時の不便の有無（n=200）



■必要な情報やサービス（n=200）



(5) 事業者アンケート

調査概要	<p>【日時】 令和5年8月25日（金）～令和5年9月4日（月）</p> <p>【方法】 郵送またはメールによる送付・回収</p> <p>【対象】 交通事業者、関連事業者、近隣自治体</p>
------	---

①交通事業者

事業者名	内容
鉄道 （東日本旅客鉄道株）	<p>■利用者の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の特性や傾向としては下記の通りである。 平 日：通勤者（6時30分～8時15分、18時15分～20時頃） 高校生（6時30分～8時頃、17時30分～19時頃） 土日祝：観光客（8時30分～11時30分頃、14時40分～18時20分） ・特急「わかしお」は平日の日中帯、土休日含め夜間の上り列車の利用が少ない。 ・少子高齢化やモータリゼーションの進展、新型コロナウイルスを契機としたライフスタイル等の変化による利用者の減少。戻りつつあるが、厳しい状況が続く。 <p>■運行上・経営上の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通列車は、令和2年12月18日より日中帯を中心に上総一ノ宮～安房鴨川～木更津間で直通ワンマン（運転士のみ）運転を新型車両にて開始。現在では運体系や上総一ノ宮駅での乗り換えも含め認知され受け入れられている。 ・持続的な公共交通ネットワーク維持のためには、自治体や地元の皆様のご理解ご協力を得ながら、利用状況を踏まえた列車ダイヤの見直し、設備のスリム化など様々なコストダウンに取り組む必要がある。 <p>■利用促進・利便性向上・経営改善等のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伴走型地域づくりとして、御宿町へ乗車人員・収支状況の説明を行い、現状認識を共有し利用者増に向けたコミュニケーションを取っている。 ・おんじゅくつるし雛めぐりに併せた「駅からハイキング」の設定、開催や臨時特急列車の運行、バリアフリーについての話し合い等。 <p>■利用者からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの窓口や指定席券売機について。 ・コインロッカーの有無。 ・エレベーター等の設置要望。 <p>■他の交通事業者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弊社列車の発着時刻を参考にダイヤを組まれていると認識しているため、可能な限り前広な情報共有に努めたい。また、意見交換会が必要。 <p>■行政への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用状況等を踏まえ施策へのご理解・ご協力をお願いしたい。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続的な公共交通ネットワーク維持のために、駅舎活用を検討していく必要がある。町の施策なども踏まえて意見交換が必要。

<p>高速バス (小湊鐵道株)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・平日は6時台に通勤者の利用が多く、土日祝日は観光客が平日より多い。 ・観光客が多い。 ■高速バスの運行見直しの可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・現状変更の予定はないが、運行時間の見直しを検討している。 ■利用者からの声 <ul style="list-style-type: none"> ・便数を増やしてほしい。 ・木更津金田バスターミナルでの乗降。 ■他の交通事業者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・高速バスと他の交通サービスを同時利用した際の、他の交通サービスでの割引及び割引分の補填をお願いしたい。 ■行政への要望 <ul style="list-style-type: none"> ・他の市町ではなく、行き先に御宿を選んでもらうよう町の魅力を発信してほしい。他の自治体が展開しているような、高速バスのラッピング広告実施を検討してほしい。
<p>路線バス (小湊鐵道株)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・平日は買い物、市外への通院（塩田病院）の高齢者が多く、土日祝日は買い物客や観光客が多い。 ■運行上・経営上の問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・赤字での運行となっており、赤字路線として路線を維持することが難しくなっている。 ・乗務員の不足に加え、外房地区は定年後再雇用の嘱託社員が多く、乗務員高齢化問題が内房地区の営業所よりも深刻である。 ・車両の経年劣化による車両の代替では、各種メーカーのトラブルにより代替が計画通りに行われていない。 ・キャッシュレス決済については、導入コスト・運用コストの両面からICの導入をしても、費用の回収は難しい。IC以外のキャッシュレス決済も含めて導入について検討するが、導入コスト・運用コストが回収できるか不安がある。 ・人口減少により乗客の減少、コロナウイルスの影響で路線収入は減少するも、令和3年度以降、観光客増加の影響もあり、運送収入が好転するも、一般路線においては依然赤字路線となっており、コロナウイルスの影響前の水準に戻っていない。 ■町内の走行環境における問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・夏期の土日祝は海水浴・ウォーターパーク等観光客の増加に伴い混雑が発生。 ■他の交通事業者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・高速バスと他の交通サービスを同時利用した際の、他の交通サービスでの割引及び割引分の補填をお願いしたい。 ■行政への要望 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の収支状況によっては路線バスシステムの再編、便数の減少、系統や路線を廃止し、例えば登録者以外でも予約可能とする等、デマンドサービスの対象者拡大に

	舵を切ることを提案していきたい。																
エビアミー号 (小湊鐵道株)	<p>■利用者の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院への通院、スーパー等商業施設への利用が大半であり、郵便局・銀行といった金融機関や町役場等の行政機関への利用が次点。 ・利用者数も増加傾向にあり、直近3ヶ月は月500人以上の利用を記録している。 <p>■運行上・経営上の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗務員の不足、高齢化は路線バスと同様の状況。 ・ワゴンタイプの輸送のため、狭い道への進入ができないこと、回転もセダンタイプよりもスペースを要すること。 																
タクシー (エミタスタクシー南総株)	<p>■事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両保有台数：19台、運転者数19人 ・利用の多い時間帯の稼働台数（稼働率） 9:00～12:00 約8台（約5.5割） ・利用の少ない時間帯の稼働台数（稼働率）13:00～15:00 約4台（約4.8割） <p>■利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗客に占める住民は約8割程度となっている。 ・利用の多い日は下記の通りである。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>曜日</th> <th>時間帯</th> <th>利用の多い場所</th> <th>利用者の年齢層</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月</td> <td>9:00～11:00</td> <td>病院・スーパー</td> <td>70歳</td> </tr> <tr> <td>金</td> <td>9:00～11:00 14:00～16:00</td> <td>病院・スーパー レジャー施設</td> <td>45歳</td> </tr> <tr> <td>土</td> <td>9:00～11:00</td> <td>レジャー施設</td> <td>55歳</td> </tr> </tbody> </table>	曜日	時間帯	利用の多い場所	利用者の年齢層	月	9:00～11:00	病院・スーパー	70歳	金	9:00～11:00 14:00～16:00	病院・スーパー レジャー施設	45歳	土	9:00～11:00	レジャー施設	55歳
曜日	時間帯	利用の多い場所	利用者の年齢層														
月	9:00～11:00	病院・スーパー	70歳														
金	9:00～11:00 14:00～16:00	病院・スーパー レジャー施設	45歳														
土	9:00～11:00	レジャー施設	55歳														

②関連事業者

事業者名	内容
商工会	<p>■現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により減少した観光客が、コロナ前の水準まで回復していない。観光業だけでなく商業にも影響しており売上は減少している。地元のお客様も高齢化により来店者数が減少している。 <p>■公共交通と連携・協力した取組みの可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御宿町商店振興会がポイントカードを新しくする予定である。エビアミー号の利用者にポイントを付与していただくと商業施設利用者が増えるのではないかな。 <p>■来訪者や商業施設からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道が存続するためには、運賃を値上げして、行政が負担するだけでなく、利用者の負担増加も仕方のないこと。 <p>■行政への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会員には介護タクシー事業者がいるので、配慮していただきながら公共交通を発展してほしい。 ・エビアミー号の目的別利用者を集計されているが、「自宅⇒降車地」「乗車地⇒自宅」で分けて乗降地を集計してほしい。

観光協会	
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者や障がい者からの声 <ul style="list-style-type: none"> ・手続きをもう少し簡略化し、気軽に使えるようにしてほしい。 ・乗降しやすくするためワンステップにしてほしい。 ・障がい者や下肢機能が低下した高齢者が利用できない場合がある。 ■公共交通と連携・協力した取組みの可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・当会で行う事業等での案内・意見徴収などは可能。 ■行政への要望 <ul style="list-style-type: none"> ・JR 御宿駅のみどりの窓口を再開してほしい。 ・御宿駅の駐車料金をもう少し安くしてほしい。 ・車椅子で乗ることができない。 ・夜間の公共交通が不足している。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■既存のスクールバスの混乗可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・御宿小学校の更新協議の中でスクールバスの運行について検討し、御宿台、実谷、七本、上布施高山田区が運行区域となるが、スクールバスの住民混乗は検討していない。実際にスクールバスが運行してから子どもの数等により判断となる。スクールバスの運行時間以外での利用は可能。 ■路線の設定における課題 <ul style="list-style-type: none"> ・路線は大通り（国道、1・2級町道）の運行を基本としているので、停留所の場所、運行時間、下校時の低学年、高学年を分けての運行について考える必要がある。 ■児童・生徒・保護者からの声 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行に関する声はあるが、自家用車の運転ができる保護者が多いため、公共交通の要望はない。 ・公共交通としてスクールバスの運行は考えていないが、長年の町の取組を経て現在のエビアミー号の運行となっている。 ■公共交通と連携・協力した取組みの可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・過去から現在までの町の取組、住民の利用状況、スクールバス自体がこども園の運行である。
商業施設	

③近隣自治体

事業者名	内容
いすみ市	<p>■地域公共交通の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域アクセスやまちづくりとの連携を図った利便性の高い公共交通網の構築。 ・各公共交通機関同士の相互連携や、誰もが利用しやすい環境整備による利便性の向上。 ・多様な主体との連携によるまちづくりと一体となった持続可能な公共交通の形成 <p>■課題解決に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内循環バス、いすみシャトルバス、市民のりあいタクシーの利便性向上とタクシーの利用促進。 ・JR外房線、いすみ鉄道の利用促進。 ・交通結節点（大原駅・長者町駅・太東駅・国吉駅）の機能強化。 ・誰もが利用しやすい車両の導入検討。 ・JRやいすみ鉄道にあわせたダイヤ改正や延伸を行い、利便性向上や利用促進を図った。
勝浦市	<p>■収支改善・利用促進のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンドタクシーについては利用者アンケート等によりニーズを把握しサービスの見直しを継続的に検討する。 ・路線バスダイヤの見直しやモビリティ・マネジメントの推進により「既存の交通インフラの有効利用」についての認識を深め、地域住民や企業など地域全体で公共交通を維持していく機運の醸成を図る。 <p>■地域輸送資源の総動員としての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を対象として運行するスクールバスへの高校生の乗車について検討。 <p>■御宿町との連携の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝浦市と御宿町を結ぶバス路線のデマンド交通へのモード変更などについて協議させていただきたい。
大多喜町	<p>■地域公共交通の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内交通不便地域の散在。 ・大多喜市街地内及び市街地隣接地区からの市街地への公共交通機関の不足。 ・人口減少、車社会化等による公共交通利用者の減少、路線数及び運行本数の減少 <p>■課題解決に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした鉄道の割引回数券の設定。 ・公共交通機関に対し、経常損失額の一部を補助。 ・養老溪谷方面への臨時バスの運行。 ・町内交通不便地域へのデマンド型乗合交通の導入。 <p>■収支改善・利用促進のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア会員制度補助金。 <p>いすみ鉄道では、町内在住の60歳以上の方について、シニア会員として登録した場合、町内区間に限り1乗車当たり100円で利用できる回数券を設定している。町から鉄道に対し、正規運賃との差額分を補助している。</p>

	<ul style="list-style-type: none">・利用増大対策事業補助金 いすみ鉄道が利用増進のため町内で実施するイベント、PRに係る費用、町内の保育園・小中学校等の団体が鉄道を利用する際の運賃について、補助金を交付している。■地域輸送資源の総動員としての取組・平成 30 年 10 月から、中学校統合に伴い運行を開始したスクールワゴンの空き時間を活用し、交通不便地域にデマンド型乗合交通を運行している。
--	--

6. 地域公共交通の課題

(1) 現状と課題の整理

御宿町の現状 	<ul style="list-style-type: none">・令和5年の総人口は6,673人となっており、過去5年間で減少傾向。高齢化率は国・千葉県と比較してもその値は高く50%を超えている。・御宿駅を核とした中心市街地と、里海エリアである海岸沿いにかけて人口が集中。北西部の里山エリアでは比較的人口が少なく過疎化が進んでいる。・通勤・通学流動は、流出・流入ともに隣接するいすみ市と勝浦市の割合が高い。・日常生活の利便施設は、まちなかエリアと里海エリアに機能が集積し、里山エリアは集客機能が低い状況。
地域公共交通の現状 	<ul style="list-style-type: none">・鉄道及び高速バスは新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にあったが現在は徐々に回復傾向となっている。路線バスは利用者数が戻らず、交通事業者の経営を圧迫している。・エビアミー号は利用者及び運賃収入は増加傾向にある一方、乗合率の向上が課題となっている。・公共交通に関する財政負担は増加傾向にあり、利用促進や公共交通の転換等による運賃収入の増加が求められる。
上位関連計画 	<ul style="list-style-type: none">■第5次御宿総合計画～みんなで創るみんなのONJUKU2030～<ul style="list-style-type: none">・誰もが利用しやすい地域交通となるよう、鉄道及び路線バス等の維持・充実にに向けた取組みを進める。■御宿町人口ビジョン及び御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略<ul style="list-style-type: none">・持続可能な地域公共交通の確保と利用促進。
意向把握調査 	<ul style="list-style-type: none">■住民アンケート調査<ul style="list-style-type: none">・通勤・通学時の移動手段として、30代、40代では自家用車が8割を超えている。10代、20代では他の年齢層と比較して鉄道の利用率が高い傾向。・日常生活の移動では、通勤・通学、通院、買物のいずれにおいても御宿町外を行き先とすることが多い。・公共交通の利用意向として、30～60歳代では「利用したいと思わない・利用しない」が最も多いが、10・20歳代では「日常的に利用している」が最も多い。また「現在は利用していないが、今後利用したい」は年齢が上がるにつれて割合が増えている。■ワークショップ<ul style="list-style-type: none">・エビアミー号について、近隣市との連携による運行エリアの拡大や、運行時間帯の見直し等の声が多く挙がった。また、環境整備として、御宿駅のバリアフリー化や、待合環境の整備、道路環境の整備等に関する意見も多い。■公共交通の利用者に対するアンケート調査<ul style="list-style-type: none">・鉄道利用者の「通勤」「通学」での利用が多く、利用者からは「運行時間帯の拡大」「運行本数の増便」「エスカレーターやエレベーターの設置」に関する要望が多い。・高速バスに対して利用者からは、「運行本数の拡大」「行き先」に関する要望が多い。・エビアミー号は登録者の内、約半数が実際に利用をしていない。地区別では、「里海」の利用率が最も高く、「まちなか」の利用が最も低い。登録しているが利用しない理由としては「自動車の方が便利」「利用する用事が特にない」「予約が面倒」等である。・エビアミー号利用者の目的地は「御宿駅」が多い。今後の利用意向としては「今後も変わらず利用したい」「利用回数が増えると思う」が多い。・エビアミー号に期待することは、「予約がなく利用できること」「運行時間帯が拡大すること」「乗降地点が拡大されること」等が挙がっている。■旅行者アンケート調査<ul style="list-style-type: none">・旅行者の来訪時の交通手段及び観光周遊の際の交通手段は「自家用車」が8割近く、次いで「鉄道」「高速バス」となっている。・全体の半数以上が移動時に不便を感じたことがあると回答しており、必要なサービスとして「情報案内等の充実」「統一的な情報の提供」等が挙げられている。■事業者アンケート調査<ul style="list-style-type: none">・利用者の減少や乗務員の確保や高齢化への対応が課題となっている。事業者毎に課題解決に向けて取組を行っているが、交通事業者や他分野の事業者との連携による利便性の向上、利用促進等が必要である。

地域公共交通の課題

課題①
高齢者や学生等の日常生活
における移動手段の確保

課題②
地域の特性に応じた
交通サービス・交通環境の提供

課題③
近隣市町との連携による
広域アクセスの利便性向上

課題④
多様な主体・他分野との
連携による利用促進

(2) 公共交通の課題

課題① 高齢者や学生等の日常生活における移動手段の確保

本町の人口は年々減少傾向となっており、国や県全体と比較して高齢化率も高いことから、今後も人口減少が進んでいくことが予想される。住民アンケートからも分かるように、10歳代・20歳代では日常的に公共交通を利用しており、また年齢層が上がるにつれて今後公共交通を利用したいという意向が増えている。

高齢者や学生等の日常生活における移動手段の確保を行うとともに、高齢化への対応として、公共交通におけるバリアフリー推進等の環境整備が必要である。

課題② 地域の特性に応じた交通サービス・交通環境の提供

本町では、鉄道、高速バス、路線バス、エビアミー号、タクシーのほか、子ども園送迎バスや民間送迎バス等の多様な交通システムが運行されている。

町内の各エリアのニーズを考慮した運行サービスの見直しを行うとともに、御宿駅や高速バス・エビアミー号の乗降場所となっている御宿町公民館等における交通機関同士の乗り継ぎに係る利便性の強化、運行情報案内の充実等、交通結節点として分かりやすく利用しやすい環境整備を行うことで、地域公共交通全体の満足度向上を図ることが必要である。

課題③ 近隣市町との連携による広域アクセスの利便性向上

本町では、通勤・通学や通院、買い物等の日常生活において町外を行き先とすることが多く、特に隣接地域であり、医療・商業施設などの集客施設が多数立地するいすみ市や勝浦市との往来が多い状況である。こうした実情を踏まえ、鉄道や高速バスとの乗継強化やエビアミー号の町外への乗り入れ、近隣市のデマンドタクシーとの連携等を検討し、近隣市町との連携体制の構築による広域アクセスの利便性向上が必要である。

課題④ 多様な主体・他分野との連携による利用促進

人口減少をはじめ、人件費の上昇や燃料価格の高騰等の影響により交通事業者の財政負担が増加する中で、住民意識の醸成による自家用車から地域公共交通の利用転換による利用促進が求められる。また、今後は生活交通のみで地域の公共交通を維持していくことは困難である。

自転車と一緒に旅ができる B.B.BASE や駅からハイキング、観光バスの誘致・導入等の交通事業者との連携、観光分野とのイベント事業の実施など、町外から誘客を図ることで多様な主体・分野を巻き込んだ公共交通の利用促進が必要である。

7. 御宿町公共交通計画策定に係る基本方針

地域公共交通の課題に対応するため、本計画の基本理念と基本方針を設定する。

(1) 基本理念

ひと・マチ・自然をつなぎ

まちを支える地域公共交通網の実現

(2) 基本方針

- 課題① 高齢者や学生等の日常生活における移動手段の確保
- 課題② 地域の特性に応じた交通サービス・交通環境の提供
- 課題③ 近隣市町との連携による広域アクセスの利便性向上
- 課題④ 多様な主体・他分野との連携による利用促進

方針①

近隣市町との連携による日常生活を支える交通体系の構築

方針②

交通環境の整備による誰もが利用しやすい交通体系の構築

方針③

まちが一体となり支える持続可能な交通体系の構築

(3) 公共交通の機能分担

本町の公共交通ネットワークの方向性は、以下の通り4段階に機能分担を図る。

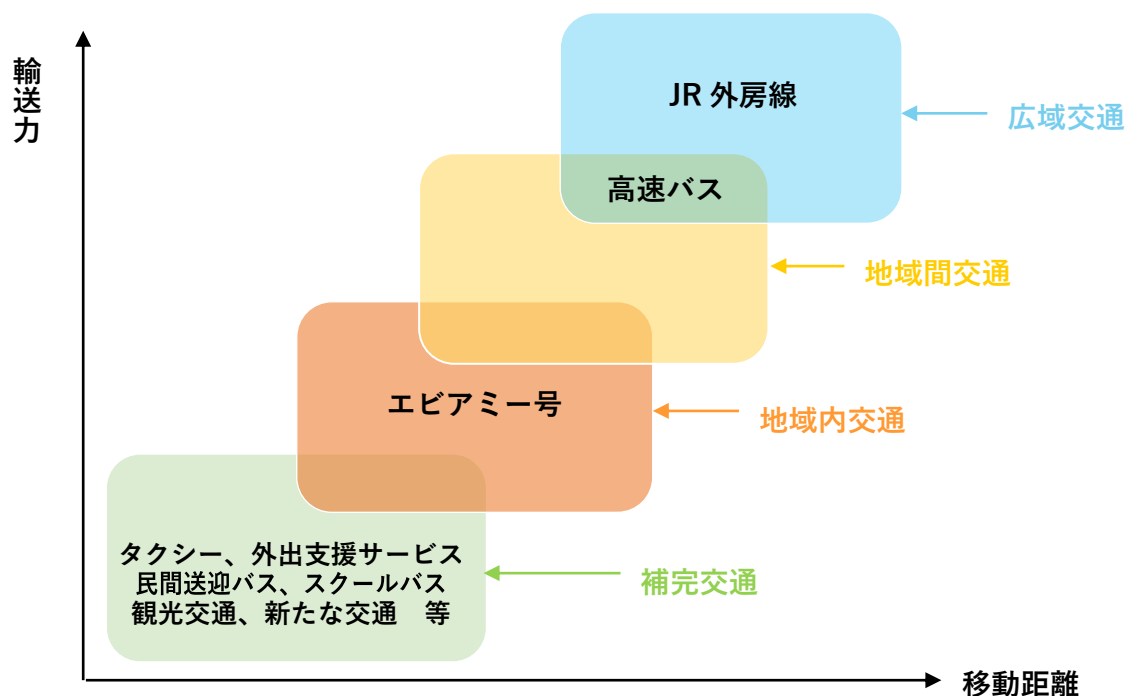
これらの交通結節点としては、御宿駅をはじめ、高速バス、エビアミー号の乗降場所となっている御宿町公民館等を位置付け、既存の公共交通ネットワークを基本としながらこれらを補完する新たな移動手段の導入を検討する。

公共交通機関の相互連携により、住民の生活交通や観光客の目的地までの交通手段としても機能させることで、利便性の向上と効率的な運行を目指す。

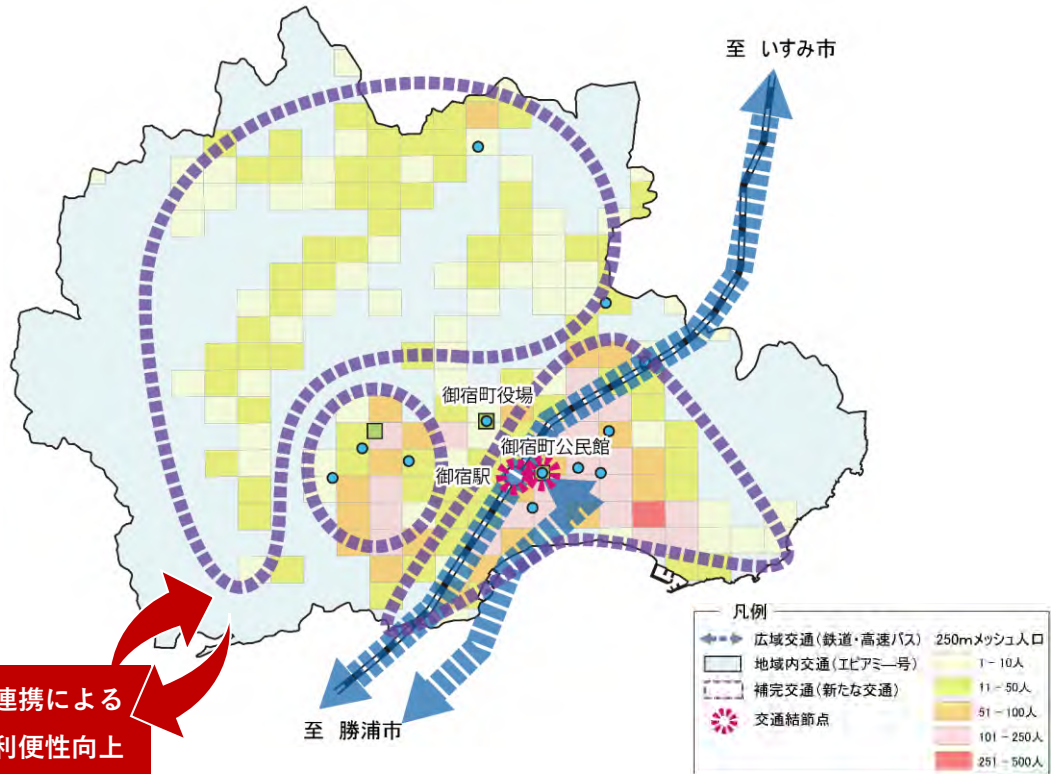
■公共交通システムの役割分担の考え方

区分	役割分担	対応公共交通システム
広域交通	○勝浦市といすみ市、東京方面へ連絡し、地域の骨格形成軸となる路線 ○通勤・通学、買物、観光など多様な目的に対応	JR 外房線 高速バス
地域間交通	○近隣市町への連絡及び町内の骨格路線 ○通勤・通学、買物、観光など多様な目的に対応	高速バス（一般乗降化）
地域内交通	○広域交通に接続、地域間路線を補完 ○町内の拠点間へと連絡 ○地域の実情に合わせて主に高齢者の買い物、通院等の目的に対応	エビアミー号
補完交通	○鉄道、バス交通等を補完し、主に高齢者などのために少量個別輸送を担う移動手段 ○地域の実情に合わせて主に買い物、通院等の目的に対応 ○観光二次交通としての機能整備	タクシー、外出支援サービス 民間送迎バス、スクールバス、 地縁交通(地域の共助)、観光交通、新たな交通 等
交通結節点	○上記交通システムの乗り継ぎ拠点となる御宿駅・御宿町公民館をはじめ、地域の各拠点における乗り継ぎ環境機能を強化	御宿駅、御宿町公民館 等

■輸送力と移動距離との関係による町内各公共交通の位置付け



■将来ネットワークイメージ



近隣市町との連携による
地域間移動の利便性向上

■市域の公共交通（各交通モード）が担う役割

位置づけ	公共交通システム	役割	確保・維持策
広域交通 (広域幹線)	JR 外房線 (交通事業者) 高速バス (交通事業者)	勝浦市、いすみ市、 東京方面へ連絡し、 地域の骨格形成軸と なる路線	交通事業者と協 議の上、一定以 上の運行水準を 確保。
地域間交通 (幹線)	高速バス (交通事業者)	近隣市町への連絡及 び町内の骨格路線	
地域内交通 (支線)	エビアミー号 (御宿町 (運行は交通事業者に委託) 御宿町には JR 御宿駅があるほか駅周辺 から近隣市をつなぐ路線バス・高速バスが 運行されている。タクシーは基本1台で循環 バス等はない。高齢化は県下上位で免許 返納者も増加するなど自家用以外の移動手 段のニーズが高まっており住民の暮らしを 支える基盤として、地域交通の確保維持は 大きな課題である。 そのため、町では地域内フィーダー系統 確保維持改善事業により町内全域をカバー する 10 人乗りの乗合運行を維持すること が重要で、引き続き本事業を提供する必要 がある。	広域交通・地域間交 通に接続する路線	地域公共交通確 保維持事業 (フィ ーダー補助) を活 用し持続可能な 運行を目指す。
補完交通	タクシー、外出支援サービス、民間送迎バ ス、スクールバス、地縁交通 (地域の共 助)、観光交通、新たな交通等	鉄道、バス交通等を 補完し、主に高齢者 等のために少量個別 輸送を担う移動手 段	地域住民、交通 事業者と協議の 上、利用ニーズ に応じた運行水 準を確保。

8. 計画の目標と評価指標

(1) 目標の設定

3つの基本方針を実現するため、達成すべき計画の目標を下記の通り定める。

方針① 近隣市町との連携による日常生活を支える交通体系の構築

方針② 交通環境の整備による誰もが利用しやすい交通体系の構築

方針③ まちが一体となり支える持続可能な交通体系の構築

目標① 利用ニーズに即した利便性の高い交通ネットワークの形成

目標② 誰もが利用しやすい交通環境の整備

目標③ 他分野・他産業との連携による利用促進

目標④ 住民、交通事業者、行政の協働による持続可能な体制づくり

(2) 評価指標

計画目標に応じた評価をするための指標と目標値を以下の通り定める。

評価指標	定義	現況値 (R4)	目標値 (R9まで)	考え方・効果
公共交通乗 降客数 (※1)	御宿駅 (事業者)	790 人/日	830 人/日	事業実施により毎年 1.0% のベースアップを設定
	高速バス (事業者)	67,599 人/年	70,979 人/年	
	エビアミー号 (町)	4,791 人/年	令和 5 年度 15 人/日 (359 日) 5,385 人 令和 6 年度 15 人/日 (360 日) 5,400 人 令和 7 年度 15 人/日 (359 日) 5,385 人 令和 8 年度 15 人/日 (359 日) 5,385 人 令和 9 年度 15 人/日 (360 日) 5,400 人 ・目標を達成するため、乗合運行の利用方法がわかるよう町広報紙等に掲載し周知する。 ・高齢者や子どもが料金を支払いやすいよう回数券を発行している。 ・車両位置情報配信サービスを導入して車両がどこを走っているかわかるようにし、利便性向上を図っている。	エビアミー号は 1 日 15 人程度の利用者数を維持。町内全域をカバーする乗合運行を維持することにより高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保される。また、JR 及び民間バスといった交通軸に接続する公共交通サービスで外出する機会促進と地域活性化にもつながる。
収支率 (※2)	エビアミー号の収支率	13.8%	15.0%以上	利用者増による収支率増を見込み
財政負担額 (※3)	公共交通に関する市の財政負担額	18,638 千円	20,000 千円以下	事業実施による財政負担の増が予想されるが概ね基準値を維持
交通結節点の機能整備 (※4)	整備及び機能強化を実施している交通結節点の数	0 か所	2 か所	御宿駅、御宿町公民館等を想定
他のまちづくり分野との連携 (※5)	観光や商業、福祉と連携した協議及び取組回数	0 件	1 件以上	新たな取組であるため 1 件以上として設定
利用促進の取組 (※6)	モビリティ・マネジメント施策の取組	0 件	1 件以上	新たな取組であるため 1 件以上として設定

データの取得方法

- ※1 東日本旅客鉄道(株)、小湊鐵道(株)提供データから毎年計測、御宿町統計データから毎年整理
- ※2 御宿町統計データから毎年整理
- ※3 御宿町統計データから毎年整理
- ※4 交通結節点の整備状況より毎年実績整理
- ※5 他分野との連携事業より毎年実績整理
- ※6 交通事業者連携事業より毎年実績整理




9. 実施事業及び実施主体

(1) 計画目標を踏まえた実施事業

計画目標	実施事業
目標① 利用ニーズに即した 利便性の高い 交通ネットワークの形成	(事業1) 鉄道ネットワークの維持・活性化 実施体制：御宿町、鉄道事業者、近隣市町
	(事業2) 高速バスの維持・サービスの見直し 実施体制：御宿町、高速バス事業者、近隣市町
	(事業3) エビアミー号の利用促進・サービスの強化 実施体制：御宿町、エビアミー号運行事業者、近隣市町
	(事業4) タクシー事業の維持・利用促進 実施体制：御宿町、タクシー事業者、近隣市町
目標② 誰もが利用しやすい 交通環境の整備	(事業5) 交通結節点の整備 実施体制：御宿町、交通事業者
	(事業6) 御宿駅のバリアフリー化の推進 実施体制：御宿町、鉄道事業者
	(事業7) 情報発信の強化、DXの検討 実施体制：御宿町、交通事業者、関係団体
目標③ 他分野、他産業との 連携による利用促進	(事業8) 商業や観光と連携した利用促進策の検討 実施体制：御宿町、交通事業者、関係団体・事業者
	(事業9) 福祉分野との連携 実施体制：御宿町、関係団体・事業者
目標④ 住民、交通事業者、 行政の協働による 持続可能な体制づくり	(事業10) モビリティ・マネジメントの検討・実施 実施体制：御宿町、交通事業者、住民
	(事業11) 運転手不足への対応 実施体制：御宿町、交通事業者、近隣市町
	(事業12) 地域住民主体による移動手段の検討 実施体制：御宿町、住民

(2) 実施事業

計画目標① 利用ニーズに即した利便性の高い交通ネットワークの形成

事業1		鉄道ネットワークの維持・活性化				
事業概要	<p>○鉄道ネットワークの維持・活性化</p> <p>JR 外房線は、住民の日常生活や町外からの来訪客にとって重要な移動手段であることから、広域交通として位置付け、乗り継ぎ利便性を考慮し、適宜運行ダイヤの見直し等を行いながら、路線の維持・活性化に努める。また、御宿駅は来訪客の玄関口であることから、駅前の賑わい創出等により鉄道の利用促進を図る。</p>	 <p style="text-align: center;">御宿駅</p>				
実施体制	御宿町、鉄道事業者、近隣市町					
実施期間	項目	R6	R7	R8	R9	R10
	鉄道ネットワークの維持・活性化	維持・活性化 				
事業2		高速バスの維持・サービスの見直し				
事業概要	<p>○高速バスの維持・サービスの見直し</p> <p>高速バスは御宿公民館から勝浦市を經由して東京駅等まで運行しており、広域交通として利用者のニーズに応じ、適宜運行サービスの見直し等を行いながら路線の利用促進を図る。また、御宿公民館-勝浦駅間について、路線バスと同様の利用ができるよう、一般乗降化の可能性を検討する。検討にあたっては、高速バスの運行事業者や近隣市町との協議を行う。</p>	<div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【事例 千葉県南房総市・JRバス関東】(国土交通省)</p> <p>地域生活交通の確保及び利便性向上のため、高速バスを一般道区間について一般路線バスとして運行できるよう、高速バス停において一般利用者の乗降を可能にすることにより一般路線バスの運行本数を補っている。</p> </div>				
実施体制	御宿町、高速バス事業者、近隣市町					
実施期間	項目	R6	R7	R8	R9	R10
	高速バスの維持・サービスの見直し	検討・協議 				

事業3	エビアミー号の利用促進・サービスの強化					
事業概要	<p>○エビアミー号の利用促進・サービスの強化</p> <p>エビアミー号は利用者の乗合率の向上が課題であることから、情報発信の強化や利用者のニーズに応じた料金設定や運行時間帯等の運行サービスについて継続的に見直しを行い、利便性を高めることで利用促進を図る。</p> <p>また、高齢化の進行により、自家用車以外の移動ニーズが高まる中で、町内全域をカバーするエビアミー号は重要な交通手段であることから、引き続き地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用していく。</p> <p>○近隣市町との相互乗り入れの検討</p> <p>地域間移動の利便性向上を図るため、他市町のデマンド交通の乗り入れの実施に向けた検討・協議を行う。また、エビアミー号の車両台数を増やす可能性も検討し、関係事業者や近隣市町との協議を行うこととする。</p>					
実施体制	御宿町、エビアミー号運行事業者、近隣市町					
実施期間	項目	R6	R7	R8	R9	R10
	エビアミー号の利用促進・サービスの強化	維持・強化				
	近隣市町への乗り入れ（相互）の検討	協議	実施			



エビアミー号

■地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）

系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行態様	実施主体	補助事業の活用
エビアミー号	—	町内16か所の乗降場所	—	自家用有償	区域運行	御宿町（運行は交通事業者に委託）	フィーダー補助

事業4	タクシー事業の維持・利用促進					
事業概要	<p>○タクシー事業の維持・利用促進</p> <p>タクシーは、利用者の個別的なニーズにきめ細かく対応することが可能である。駅やバス停まで歩くことが困難な高齢者や夜間の利用などのニーズもあるため、重要な移動手段としてタクシー事業の維持を図る。</p> <p>総合公共交通マップの作成等により、タクシー事業の周知・情報の提供を行い、利用促進を図る。</p>					
実施体制	御宿町、タクシー事業者、近隣市町					
実施期間	項目	R6	R7	R8	R9	R10
	タクシー事業の維持・利用促進	実施				

計画目標② 誰もが利用しやすい交通環境の整備

<p>事業5</p>	<p>交通結節点の整備</p>					
<p>事業概要</p>	<p>○交通結節点の整備</p> <p>町内を運行している各交通手段の結節点として御宿駅や御宿町公民館を検討し、ベンチや上屋の設置等による待合空間の整備や公共交通機関同士の乗り継ぎ強化等を行い、快適かつ利便性の高い空間づくりを推進する。</p> <p>また、御宿町での新たな需要や移動の流れが生まれる可能性も見据え、主要な観光施設や商業施設等も交通結節点として検討していく。</p> <div data-bbox="1034 331 1422 613" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">御宿町公民館</p> <div data-bbox="363 734 1433 992" style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> <p>【事例 埼玉県深谷市】（関東運輸局）</p> <p>コミュニティバスの見直しに伴い、コンビニへ協力依頼を行い設置された。利用しやすい環境づくりという観点から、市は「バスまちスポット」として協力可能な施設・店舗を募集する取組を行った。</p> <div data-bbox="1066 752 1374 976" data-label="Image"> </div> </div>					
<p>実施体制</p>	<p>御宿町、交通事業者</p>					
<p>実施期間</p>	<p>項目</p>	<p>R6</p>	<p>R7</p>	<p>R8</p>	<p>R9</p>	<p>R10</p>
	<p>交通結節点の整備</p>	<p>検討・協議</p>			<p>実施</p>	
<p>事業6</p>	<p>御宿駅のバリアフリー化の推進</p>					
<p>事業概要</p>	<p>○御宿駅のバリアフリー化の推進</p> <p>町内唯一の鉄道駅である御宿駅では、ホームに行くための跨線橋が設置されているが、老朽化が進むとともに、鉄道を利用する高齢者にとっては階段の上り下りが困難となっていることから、線路横断の設置等、利用者の利便性向上かつ安全確保のためにバリアフリー化を推進する。</p> <div data-bbox="1034 1301 1422 1585" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">御宿駅跨線橋</p> <div data-bbox="363 1641 1433 1910" style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> <p>【事例 宮崎県三股町】</p> <p>JR 三股駅では改札口から線路を横断してホームへ行くことができるよう、令和4年3月に平面通路やスロープを新設した。遮断機や警報機を備え安全に渡れるようになっている。</p> <div data-bbox="1066 1664 1374 1888" data-label="Image"> </div> </div>					
<p>実施体制</p>	<p>御宿町、鉄道事業者</p>					
<p>実施期間</p>	<p>項目</p>	<p>R6</p>	<p>R7</p>	<p>R8</p>	<p>R9</p>	<p>R10</p>
	<p>御宿駅のバリアフリー化の推進</p>	<p>協議・構想作成</p>			<p>進捗に応じて</p>	

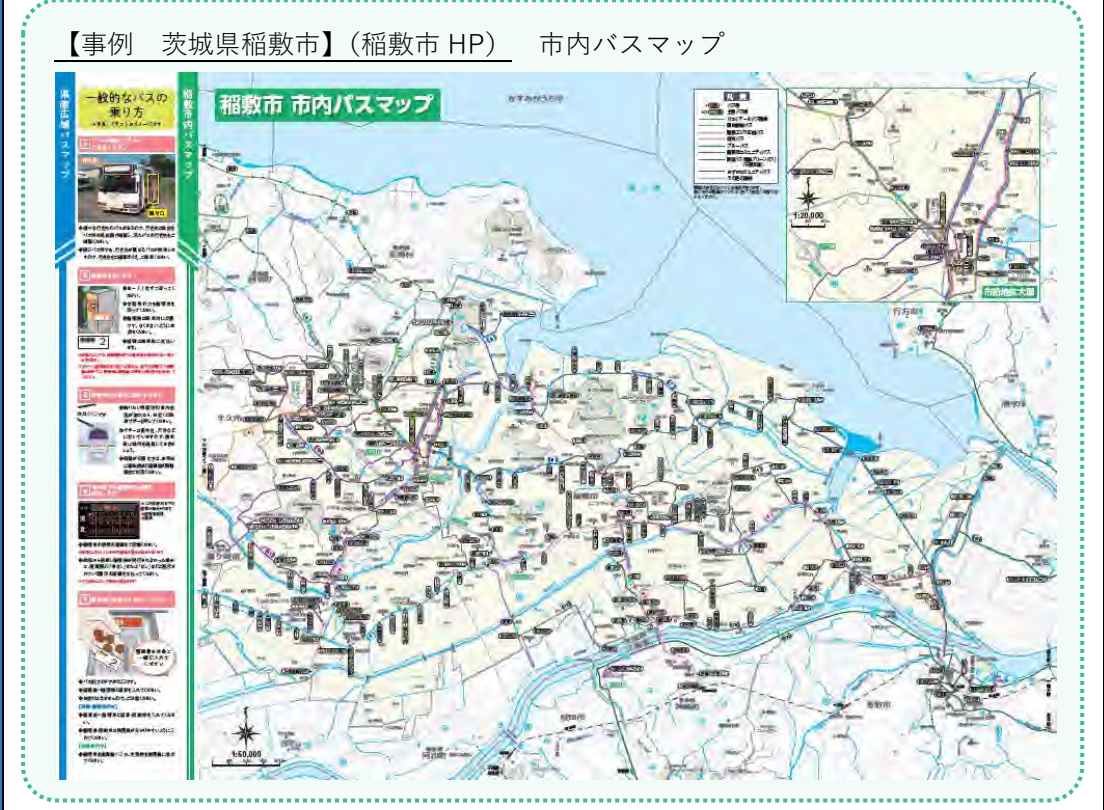
事業 7 情報発信の強化、DX の検討

事業概要

○総合公共交通マップの作成

公共交通を日常的な交通手段の選択肢としてもらうために、公共交通網の情報を一元的に提供する媒体として、公共交通の路線や時刻表を一つにまとめた公共交通ガイドブックや専用サイトの作成を検討する。

また、バス停の維持や乗車方法、乗継の割引情報、運賃の支払い方法等、初めての人も不安にならないように公共交通の利用促進につながるような情報発信の取組を検討する。



ODX の検討

御宿町では、エビアミー号の位置情報がリアルタイムで分かるバスロケーションシステムを導入しているが利用者が少ないため、さらなる周知を図る。

また、デジタルサイネージの導入による分かり易い交通情報の発信、近隣市町と連携した MaaS の導入によるシームレスな移動の実現、キャッシュレスの導入等、利便性の向上と効率的な運行に向けた DX の検討を行う。

実施体制 御宿町、交通事業者、関係団体

実施期間	項目	R6	R7	R8	R9	R10
	総合公共交通マップの作成		検討	実施		
DX の検討		検討・協議	適宜実施			

計画目標③ 他分野・他産業との連携による利用促進

<p>事業 8</p>	<p>商業や観光と連携した利用促進策の検討</p>					
<p>事業概要</p>	<p>○集客施設と連携した取組みの検討</p> <p>町内の商業施設や観光施設で利用できるポイントカード等と連携し、公共交通の利用者に付加価値を付けた割引サービスや企画切符等を検討し、公共交通の利用促進を図る。</p> <div data-bbox="336 472 1417 884" style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> <p>【事例 茨城県守谷市】(守谷市 HP)</p> <p>デマンド乗合交通を利用してジョイフル本田守谷店に行くとお買い物金額に応じてデマンド乗合交通で利用できる割引券が進呈される。ジョイフル本田守谷店のレシートの金額 1,000 円毎に割引券 1 枚 (100 円分) で、レシートの上限金額は 30,000 円。</p>  </div> <p>○企画列車や観光産業と連携したイベントの実施</p> <p>自転車と一緒に旅ができる B.B.BASE や駅からハイキング等の鉄道事業者と連携した既存コンテンツの実施、イベント限定の観光バスの導入等、公共交通を利用しながら御宿町を楽しむことができる取組みを推進する。</p> <div data-bbox="336 1108 1417 1400" style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> <p>【参考 B.B.BASE】(JR 東日本)</p> <p>JR 両国駅と千葉県房総半島を結ぶ「のっけたのしい列車」。鉄道と自転車の新しい旅をコンセプトにサイクリストが自分の愛車をそのまま列車に積んで移動することができる取組。</p>  </div> <div data-bbox="336 1422 1417 1680" style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> <p>【参考 駅からハイキング】(JR 東日本)</p> <p>JR 東日本が主催するハイキングイベントで、四季折々の絶景ポイントを味わいながら気軽に参加することができる日帰りイベントの取組。</p>  </div>					
<p>実施体制</p>	<p>御宿町、交通事業者、関係団体・事業者</p>					
<p>実施期間</p>	<p>項目</p>	<p>R6</p>	<p>R7</p>	<p>R8</p>	<p>R9</p>	<p>R10</p>
<p>集客施設と連携した取組みの検討</p>	<p>協議・検討</p>		<p>適宜実施</p>			
<p>企画列車や観光産業と連携したイベントの実施</p>	<p>協議・検討</p>		<p>適宜実施</p>			

事業9 福祉分野との連携

事業概要 ○移動支援事業の継続

御宿町では、障がい者の外出支援と経済的負担軽減のため、各種移動支援事業を行っている。今後も高齢化の進展が予想される中で、移動困難者の増加に対応するため、引き続き福祉サービスとの連携を図りながら移動支援事業を行う。

■移動支援事業一覧（再掲）

事業名	対象	内容
障害者（児）移動支援事業	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている方	屋外での移動に困難がある障害者（児）について、外出のための支援を行うことにより、障害者等の地域での自立生活及び社会参加を促進 【利用料】原則1割負担
福祉タクシー事業	以下のいずれかに該当する方 ・身体障害者手帳1・2級の方 ・療育手帳の交付を受けた方 ・精神障害者保健福祉手帳1・2級の方	重度の心身障害者（児）の社会参加を促進するため、タクシー料金の一部を助成 【交付枚数】年間で最大36枚（申請月により交付枚数が異なる）
障害者運転免許取得費助成	身体障害者手帳1～4級または療育手帳の所持者であって、運転免許証の交付を受けた方	身体障害者または知的障害者が自動車免許を取得する場合に要する経費の一部を助成 【対象経費】自動車免許証取得のために要した教習費 【助成額】教習費の2/3以内で、10万円を限度とする額
お出かけ支援事業	エビアミー号を利用した方（小学生未満、障がい者の介助者を除く。ただし小学生未満の障がい者の介助者は対象。）	タクシー料金の半分（10円単位未満切り捨て）を割引 深夜割増がある場合は、それらを適用した後の料金から割引 【助成額】タクシー料金の半額割（最大500円限度）

○高齢者の買い物支援

高齢者が抵抗なく安心して目的地に移動できるよう、福祉事業者や高齢者支援団体等との連携を強化していくとともに、移動スーパー「とくし丸」等の民間事業についても引き続き支援を行う。

【参考 とくし丸】（株式会社おおたや）

- ・販売拠点 スーパーランドいすみ店
- ・訪問エリア 御宿町
- ・訪問日 週2回
- ・御宿町ルート



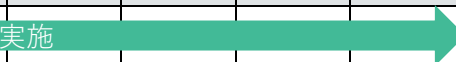
月・木	御宿台、七本、実谷、上布施
火・金	御宿台、須賀、久保、浜
水・土	新町、六軒町、岩和田、高山田



実施体制 御宿町、関係団体・事業者

実施期間	項目	R6	R7	R8	R9	R10
	移動支援事業の継続		継続			
高齢者の買い物支援		実施				

計画目標④ 住民、交通事業者、行政の協働による持続可能な体制づくり

事業 10	モビリティ・マネジメントの検討・実施					
事業概要	<p>○モビリティ・マネジメントの検討・実施</p> <p>普段公共交通を利用しない方の公共交通の利用促進を図るため、「きっかけづくり」として、公共交通に親んでもらうためのイベント開催や、免許返納をする高齢者等に対して、エビアミー号の予約方法等の周知や出前講座の実施、料金の見直し、自家用車利用を抑制するためのノーマイカーデーの設置等、過度な自家用車利用から公共交通利用への転換を促す、モビリティ・マネジメント策を検討する。</p> <div data-bbox="347 589 1417 1249" style="border: 1px dashed green; padding: 10px;"> <p>【事例 福岡県北九州市】（北九州市 HP）</p> <p>北九州市では、過度なマイカー利用を抑制するため、日頃マイカー通勤や買い物をしている方に、毎週水曜日と金曜日をノーマイカーデーとして推進し、CO2 排出削減や健康増進、交通事故防止、飲酒運転撲滅、まちの賑わいづくり等を図っている。</p>  </div>					
実施体制	御宿町、交通事業者、住民					
実施期間	項目	R6	R7	R8	R9	R10
	モビリティ・マネジメントの検討・実施	検討・実施 				
事業 11	運転手不足への対応					
事業概要	<p>○運転手不足への対応</p> <p>今後も公共交通のサービスを維持・確保していく上で、運転手の確保は必要不可欠である。各事業者においては、運転手確保のための取組を行っているものの運転手の確保が課題となっているため、町の広報紙や HP での求人情報の掲載や各種イベントへの参加等を検討し、求人活動における支援を行う。</p>					
実施体制	御宿町、交通事業者、近隣市町					
実施期間	項目	R6	R7	R8	R9	R10
	運転手不足への対応	検討・実施 				

事業 12

地域住民主体による移手段の検討

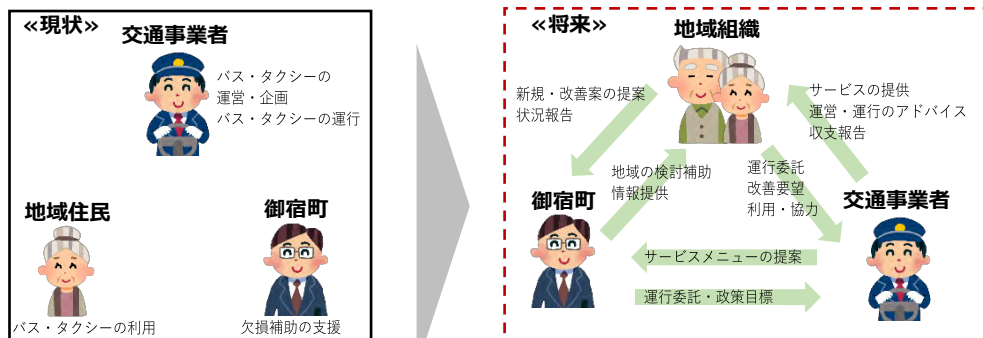
事業概要

○地域住民主体による移手段の検討

現在町内の移動は主にエビアミー号によって全域がカバーされているものの、高齢化の進行により今後公共交通のニーズが高まっていくことが予想され、新たな交通手段の導入について検討を行っていく必要がある。

一方、町の財政状況や事業者の運転手不足等の課題もある中で、新たな交通手段の導入検討に合わせて、地域住民が主体となって運営する仕組みづくりとして、他地域での取組み事例について情報収集を図るとともに、御宿町での導入可能性について交通事業者や地域住民と協議しながら検討を行っていく。

■地域が主体となる地域交通の実現の取組イメージ



【事例 千葉県木更津市】(国土交通省)

交通不便地域都される富来田地区において、地域住民主体の生活の足の確保を目的に地域が運行主体となって運行。

開始：令和2年7月～実証運行

令和3年7月～本格運行

形態：自家用有償旅客運送によるデマンド型運行

主体：富来田地区まちづくり協議会

時間：毎週水曜日・金曜日 9時～16時

運賃：片道500円(地区内・尾張屋横田店・おどや小櫃店)

片道750円(アピタ木更津店)

片道1,000円(はぎわら病院)

予約：事前登録の上、月曜日9時～12時に電話予約



実施体制

御宿町、住民、交通事業者

実施期間

項目	R6	R7	R8	R9	R10
地域住民主体による移手段の検討	協議・検討				

10. 計画の達成状況の評価

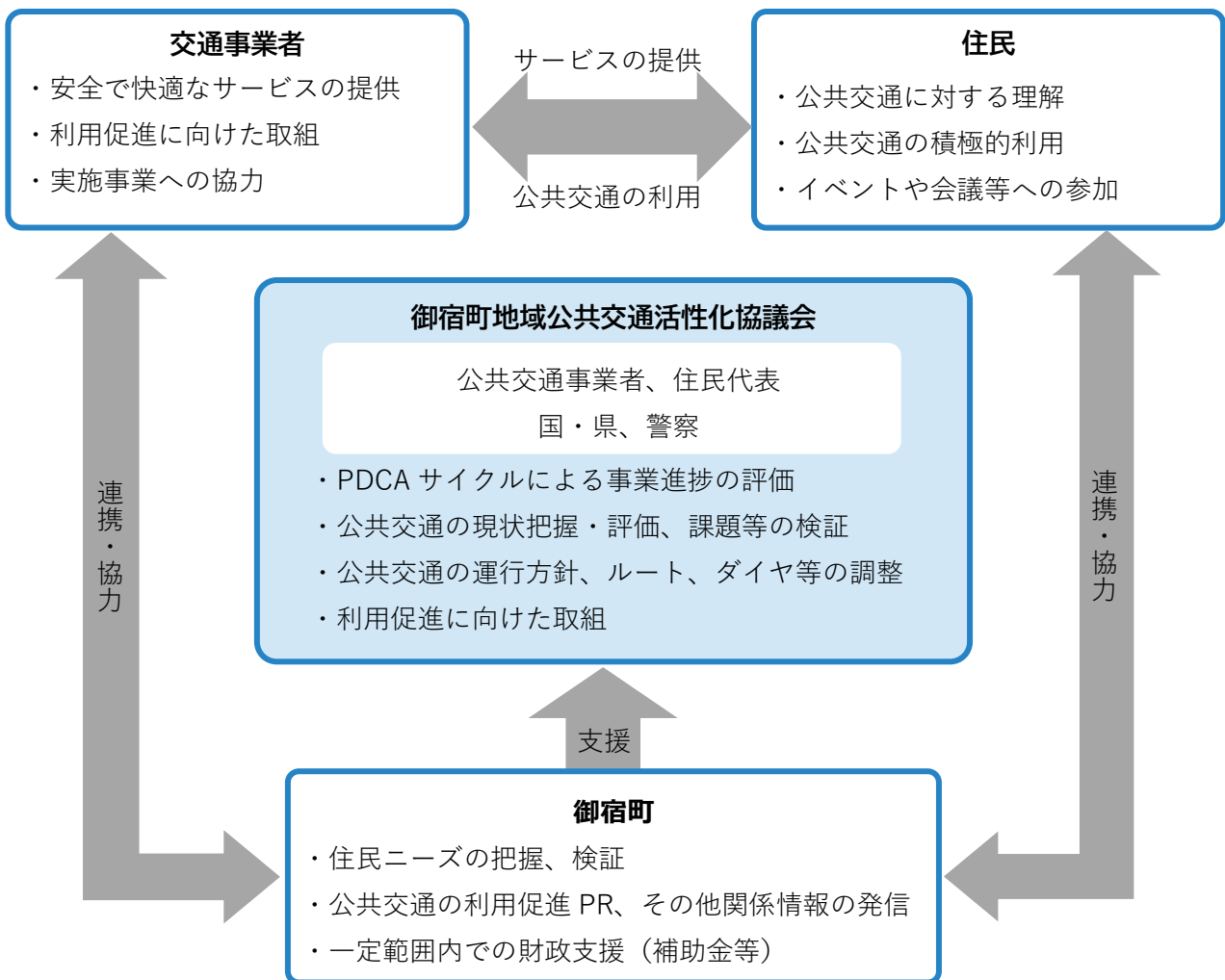
(1) 計画の実施及び進行管理の体制

町の財政負担に制約がある中で、誰もが移動しやすく、活力あるまちづくりの基盤となり、将来にわたり持続可能なネットワークを図るためには、交通事業者の自助努力や行政の支援だけでなく、住民自らが公共交通を「守っていく」という意識を持ち主体的に関ることが重要となる。

また、公共交通を魅力ある利用しやすいものとしていくために、住民、交通事業者、行政それぞれが抱える課題について共通認識を持ち、一体となって取り組んでいくことが重要不可欠である。

地域の多様な主体との協働・連携を図りながら、以下のような役割分担のもと、各事業に取り組むための体制づくりを進める。

■本計画推進のための実施体制



(2) PDCA サイクルによる推進

「御宿町地域公共交通計画」の推進にあたっては、人口減少や高齢化の他、自動運転をはじめとする技術革新等、公共交通を取り巻く環境の大きな変化を前提として、本計画に記載した事業等の評価・検証を綿密かつ継続的に行い、必要に応じて見直しを図る必要がある。

評価・検証については、「PDCAサイクル」の仕組みにより進行管理を実施し、目標達成の状況把握や事業の見直し・改善を行うこととする。

なお、PDCA サイクルの実施結果については「毎年実施する PDCA」と「計画の最終年度に実施する目標達成度に対する PDCA」を組み合わせる関係者全員で共有することとし、「御宿町地域公共活性化協議会」にて調整を図りながら、よりよい公共交通ネットワークの構築を目指していく。

- **事業実施状況の評価（年に1回実施）**

当該年度に実施した事業の評価を検証する。

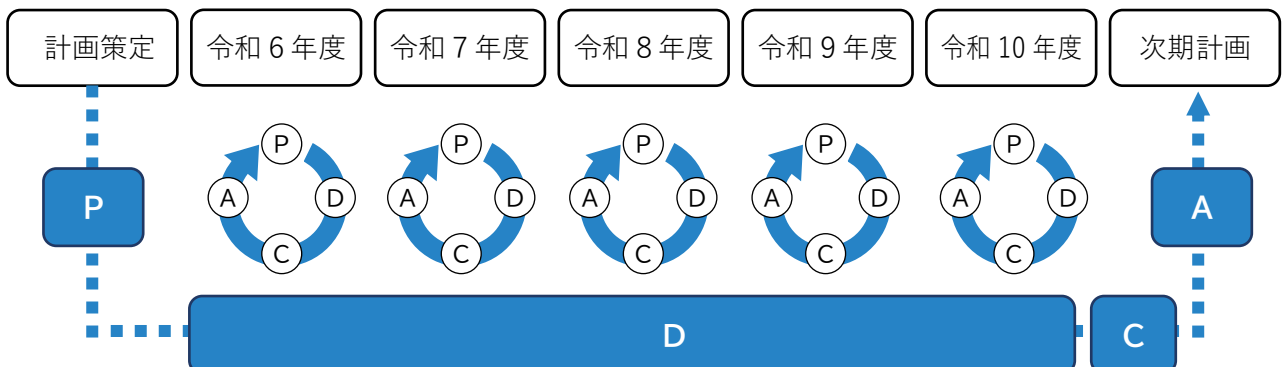
- **目標達成度の評価（計画期間最終年度に実施）**

計画に掲げる目標値との比較により、事業の達成状況を検証する。ただし、公共交通の利用ニーズや利便性は、主な目的地である商業施設・病院などの整備、道路改良などのハード整備による周辺状況の変化に影響されやすいため、利用状況やニーズ等を把握・分析し、必要に応じて見直し・改善を図る。

■PDCA サイクルの概要

項目		事業実施状況の評価	目標達成度の評価
P	Plan/計画	各路線などの運行計画の策定 各種事業の検討	御宿町地域公共交通計画の策定
D	Do/実行	地域公共交通の運行 各種事業の実施	計画に掲げる各種事業の実施
C	Check/評価	運行・利用状況の評価 事業実施効果の評価	各種事業の実行による効果（目標値の達成状況）の評価
A	Action/改善	運行・サービスの見直し 各種事業の見直し	御宿町地域公共交通計画の見直しの検討

■PDCA サイクルの概念



(3) 評価方法及びスケジュール

計画期間におけるPDCAサイクルの具体的なスケジュールと、検証するための調査概要は以下の通りとする。

計画最終年度においては、事業者から提供される利用実績データや住民アンケート調査等による住民の公共交通に関する満足度・移動行動等を踏まえ、計画全体及び公共交通体系の評価を実施し、施策の見直しや新たな施策を追加する等、次期計画に反映する。また、公共交通機関の利用状況及び計画に定めた事業の実施結果に関する評価については、毎年度行うものとする。

■評価スケジュール

	R 6	R 7	R 8	R 9	R10
① 公共交通利用者数の把握	●	●	●	●	●
② 住民アンケート調査					●
③ 公共交通利用者アンケート調査（総合計画と連動）					●
④ 事業実施状況の評価	●	●	●	●	●
⑤ 本計画の評価・検証			○		●
⑥ 公共交通体系の評価			○		●
⑦ 御宿町地域公共交通活性化協議会の開催	●	●	●	●	●

●実施

○必要に応じて実施